

317  
953



始



特233  
870



東京洋髮研究會編著

洋髮の結ひ方  
の美容秘訣

刊行

東京洋髮研究會出版部





# 洋髪の結び方の美容秘訣 目次

## 結髪準備の巻

これだけの用具を.....	一
ブラシはかう使ふ.....	四
毛を膨らまして.....	六
コテはかうして.....	一八
根の取り方は.....	二〇
ヘヤーネットのかむり方は.....	二二
シャンプーをば.....	三〇
新式鍔當法.....	三〇

束髪の卷

すべては四通りの束髪……………四三

オールバック……………四六

七三髷つき……………四九

七三耳かくし……………五〇

七三髷なし……………五二

S 卷……………五三

クローバー卷……………五五

三つロール卷……………五八

旭 卷……………六五

新型結髪の卷

撫子卷……………六九

白樺卷……………七三

曙 卷……………七八

玉椿卷……………八〇

八千代卷……………八三

バット卷……………八五

榮 卷……………八七

橘 卷……………九二

白萩卷……………九六

美容の卷

美しさの秘文……………一〇三

永遠の若さ秘事……………一〇九

結髮準備の巻

目次

美眼法	一一四
眉の美しさを	一一七
美しい鼻に	一二〇
顔さまざまの化粧	一二六

四

目次終

## これだけの用具を

鏡臺……ほごよい位置に鏡臺を据えます。上下左右、なだらかに光線が流れこんで、頭の髪のごこにも、暗い濃い影の生れないやうに、正しく物を寫してみせる位置に、鏡臺を据えて、さて、これに即かず離れず、さちらかといへば、心持ち離れ加減に、あなたはお座りなさいます。手鏡をお持ちになりまして……。

くし……セルロイド又はゴム製の櫛。荒櫛を一本と、それから……(逆毛起し用と解かし用の)……中齒と……(撫でつけ用の)……小齒とを一本づ、しかしこの中齒と小齒とは一本になつてゐるのがありますから、これをお使ひになる方が、便利ですしそれに経済です。

ブラシ……フケ取り梳き用のものと、逆毛解き用のものと、二本をお用ひになります。これはなるたけ毛のしつかりした上物をお用ひになられますやう。

コテ……毛髪に波をうたせるために、縮らせるために、一本だけはお傍に。

ピン……毛の亂れや、根や、鬢や、髷なごを留めるために、鋼鐵製のもの大、中、小、數種をお用ひになります。

ヘヤーネット……洋髪を美しく結び上げたあと、その美しさを搔き亂さうとする風を避けるため、毛の美しき整ひを永持ちさすために、毛製の網をお用ひになります。

根紐……普通の黒い紐で、中根を結える時に用ひますものです。

梳き毛……前髪や鬢や髷を膨らますために、梳き毛を入れ毛します。

それは普通の日本髪に用ひてゐるものでもよく、歐風のものでもよろしくございます。

カモチ……もしも髪の毛の少ない時に足す毛のために……。

毛筋立……毛を分ける時に用ひます。これをあの日本髪に用ひるやうに、鬢やなどを膨らますために用ひてはなりません。もしもこのためによろしいのなら、ピンの先きを用ひた方がよろしいのです。毛筋立を用ひて鬢やなどを膨らますやうとすると、先きが太いだけ、毛をよせて細かく膨らませることが出来ません。だからかへつてピンの方が……。



## ブラシはかう使ふ

まづはじめ、解いてから、ブラシを掛ける時は、とても輕うにかけます。毛のよれをとるために。

……まづあらまし、毛が解けましたら、今度はブラシを、少し心持ち斜めにして頭の地にあて、次にブラシを平にしながら、ブラシをかけます。すると、ブラシの毛が、毛の地にびつたり届いて、ちやうど櫛でフケをとつたやうそのまゝになります。さうも櫛でフケをとるといふことは、ごくと氣持のよいやうな音を立て、ゐますものゝ、毛髪それから頭のためには、感心しないことです。それはブラシでとるにしくはありません。もし永らくの習慣からして、櫛でフケをとらないと、とつたやうな氣がしな

いといふお方は、止むを得ませんから、ごく輕く、たゞ頭の地に浮いてゐるだけのフケを落す……といふ程度にして頂きたう存じます。

……さてコテをあて、その毛を揃え、結び上げるためにブラシを掛けるとき、それはブラシをととても輕く、髪の波（ウェーブ）をこはさないやうに、心して使つて下さいませう。

……それから逆毛を解かすブラシは、やつぱり輕う輕く、一時に毛の下までブラシを通さうとしないで、自然に解けるにしたがつて、ブラシの下に通つて行くやうに、そくそくと使つて行きます。毛を切らないやうに、毛を切らないやうに。

ブラシのお掃除、ブラシの毛についてゐる抜け毛のお掃除をお忘れになりませんやうに。櫛で、ブラシの毛についてゐる抜け毛をかたづけ、紙で

奇麗に拭いて、時々はアルコールで、櫛もいつしよに拭いてお消毒なさい  
ますと、たいへん結構です。

### 毛を膨らまして

毛を美しく膨らます。ふつくりと豊艶に、毛を膨らませる。それは逆毛  
を起して、毛を膨らませるのです。丁寧に入念に逆毛を起し、そして解  
なら、毛を切るのさうのといふ心配はなく、とてもそれは軽くて快う膨ら  
ませられます。

逆毛は櫛で立てますので。櫛は中齒のもので。それが細い櫛だと、さう  
も立て憎いものでして、といつて荒い櫛ですと、櫛の齒が毛の表まで通つ  
て、おもしろくありません。

さて立てる時、櫛は毛と平行に使ひます。間違つて毛に直角に櫛を使つ  
たりしますと、毛をまくし立て、毛を痛めてしまひます。

くれぐれも、一時に毛の全體を、まくし立てるやうに、立て、はなりま  
せん。

……毛のいちばん上は、取り分けて、そのまゝにして置きます。といふ  
のが、表の毛は、立てた毛の上へかぶせる毛ですし、コテを當て、ウエー  
ブする毛なんですから、これには手をつけてはなりませんのです。

……その第二番目からの毛ですが、これも、そこからすぐ地までの毛を  
一時にぐつととつて、一時に櫛でかくし立てるといふやり方はいけません。  
そんなことをしますと、毛がごちやごちやに、こんがらがつてしまつて、と  
ても解くこともさうすることも出来るものでありません。

毛を膨らまして

八



逆毛は

かうして立てる——。

……ですからして、表の毛を除けた、下の毛（つまり裏の毛です）を、またいくつかに分けて、表の毛に近い、分けた毛から櫛を入れて、逆毛を立てますのです。

……逆毛を立てる——それは、毛の根元から櫛を入れ初めて、順を追ふて、そろ／＼と毛を根元に櫛でかきよせます。さうすると、毛は櫛でまくし立てられ、根元へ根元へと片寄つてまゐりますから、快う膨れて來ます。まくし立てた毛は、そのはじめのものから、出来るだけ、根元（つまり地頭の方）へ、ぐつとよせるやうに櫛を押しやります。そうしますと、まくし立てられた毛は、下からいつたいに快う膨らんでまゐります。たいていのお方がおやりになるのを見ますに、初めから終ひまで、同じ加減でやつておられますから、初めのをよく地へ近く押しつしやいませんか

毛を膨らまして

九

ら、さう骨折つて逆毛を立て、も、快う美しう膨らんでまゐらないのです。すべては静かに……。毛を逆にまくし立てる時も、また、まくし立てたはじめの毛を地頭の方に、ぎゆうつと押しやる時も、すべては静かに……。それから……。まくし立てる時、櫛の齒は毛全體に當るやうに、取つた毛の中より櫛の中の方が、廣いぐらゐでなくてはなりません。毛の一つ場所に、櫛の齒を二度づゝ當てゝ、逆毛を立てますといふと、一つ所に違つた二つの逆毛が立つてゐることになりますから、いざ、これをほごすといふ段になると、ひさく時間を食ひます。それにまた、往々、ほごしそこねて大切な毛を切ることなぞもあります。ですからさうしてもこれは、櫛の齒が一度に毛全體に當るやうにされなければなりません。

——立てた逆毛は、かうして解します——立てた時と逆に行くので、それは、毛先から、そくく櫛を入れてまゐりますと、難なく解けるわけです。けれどもいちばん手軽で便利な方法は——さいしよ、先づ逆毛解し用のブラシ（堅い輪の形に毛の植はつてゐるブラシです）を用ひまして、毛の表から何度となくブラシをかけまして、立つてゐる逆毛を、だいたいに戻して置いてから、櫛で解いて來ますと、それは、それは、たやすく解けるものであります。

## コテはかうして

それはそんなに生目の細かい、むらの少ないものでも、新しいコテといふものは、とにかく金が練れてゐませんから、つまり生なんですから、それを一應練らすといふことが何より必要です。練らさないといふと、毛の當

りを荒くします。

コテはかうして

まづ使ふ前に、巾に椿油をつけて、それで新しいコテの柄から身の棒をよく拭いて、火に當て、それが少し熱うなるまで灼いたところで、もう一度油の巾でよくよく拭いて、また火にかけて、そうして金を練らしますと

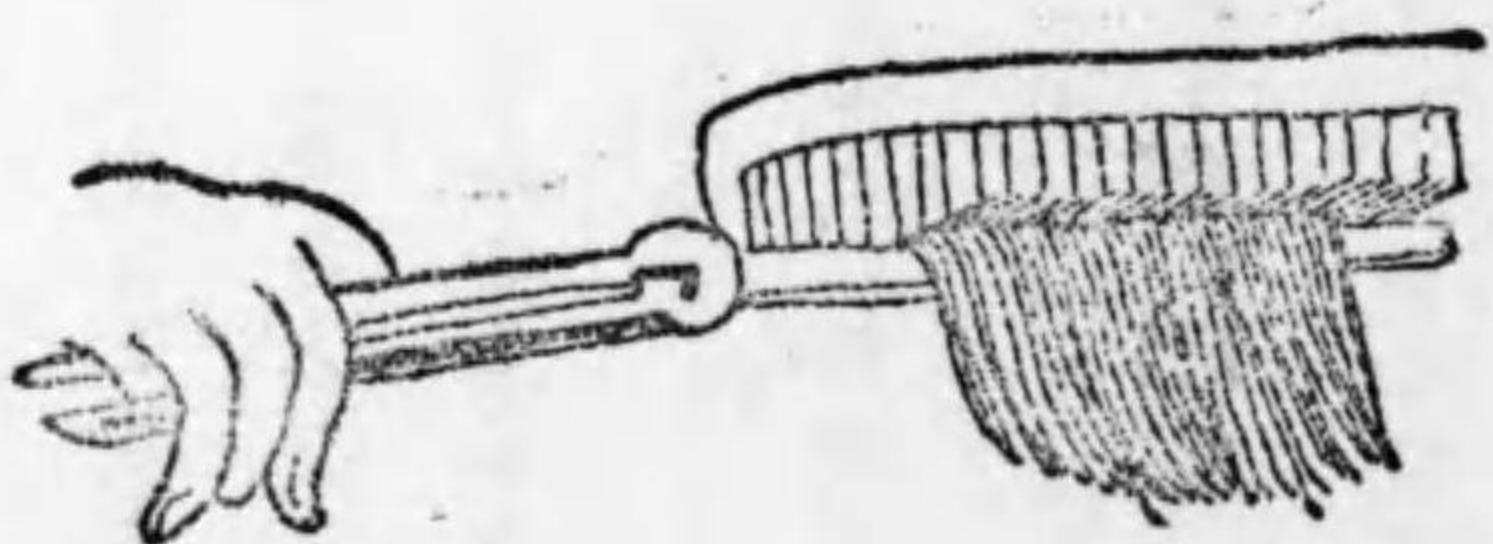
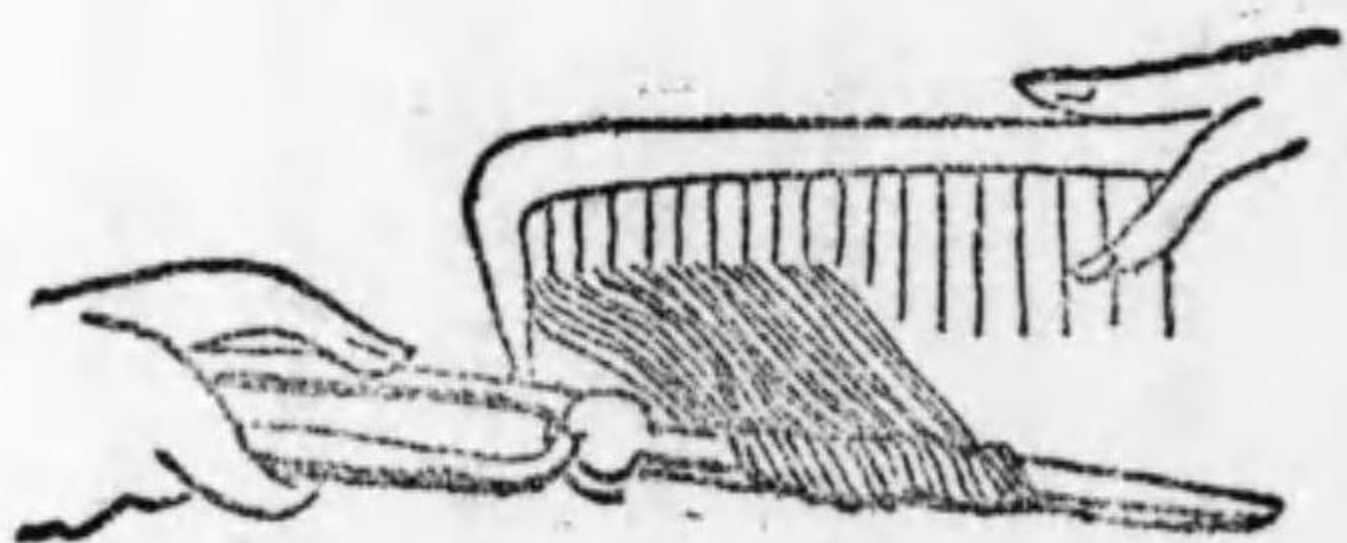
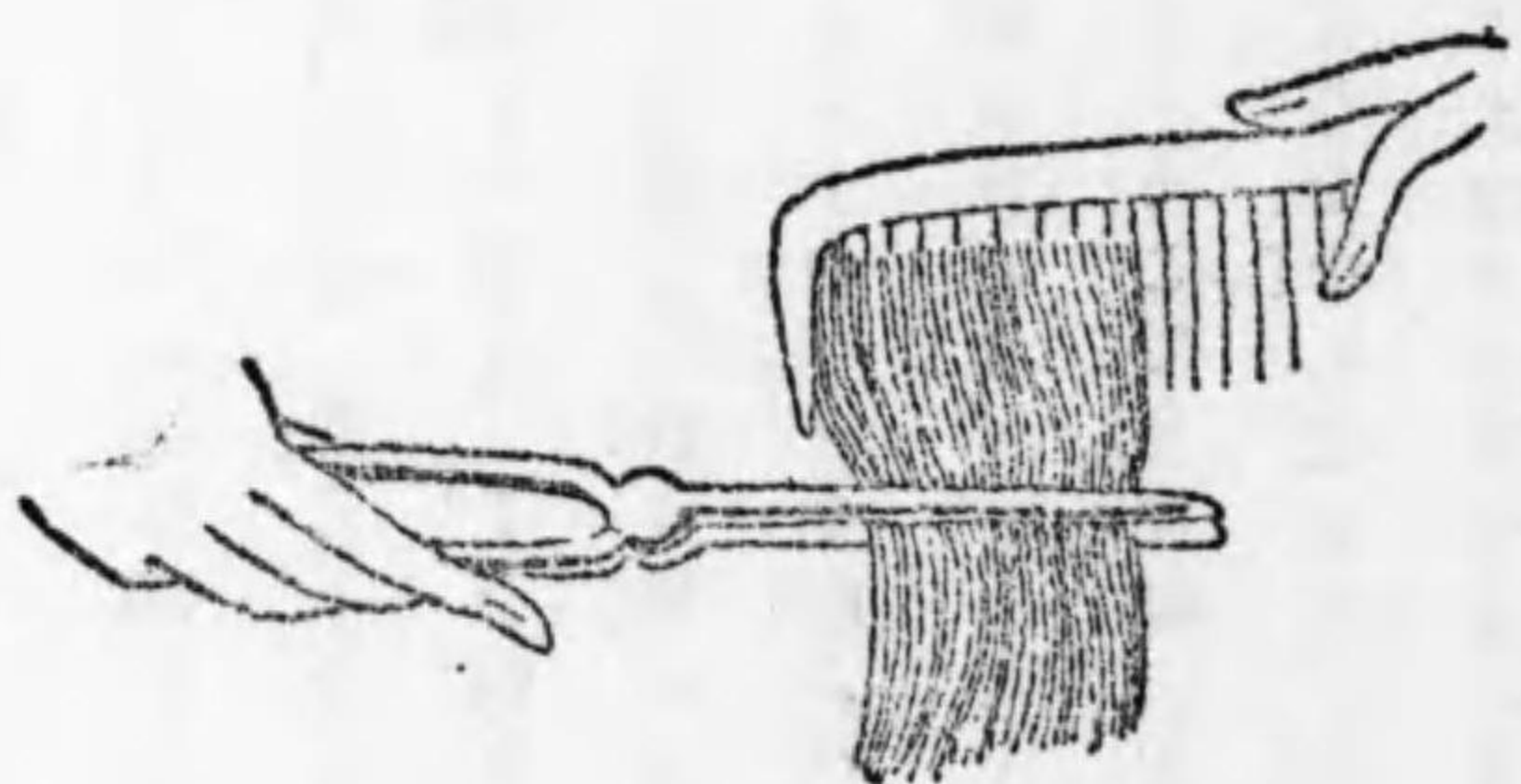
コテは練れるばかりでなく、長持ちがするやうになります。

なるべく丁寧に、大切にコテが金で出来てゐることに心を許さぬやうに大切に取扱つて下さい。

柄の方を下に、棒の方を上、コテは、かうして、あなたのお手に持たれました。

それはあまり堅くお持ちにならないやうに、コテの柄を堅くなく握つて手先に力を入れないで、指の關節に力を入れてコテをお使ひになりますや

コテはこんなにして使はれてゆく……。



コテはかうして

一三

一二

うに。

さて、コテをお使ひになるのですが、それには當てやうとするところの毛を、まづ、櫛で十分にかき下してから、更に改めて櫛を入れ、毛を平らに揃えながら、毛を引っぱり加減にした先きへ、コテをさしこみます。

……まづ、輕う挟みながら、ぐつと押えてから、

……そのコテを向ふへ一廻し廻して押えます。すると、毛はコテに一巻き巻かれます。

……そこで今度は、その巻いたコテをはづしながら逆に戻し、今巻いたところを少し廻けた、下のところで止めるのです。

……そうしてそこでまた、コテをぎゅうつと押えます。その時、押える手を、先きに巻いて出來た毛の山の方へ、心持ち寄せ加減にいたします。

そうすると——こゝに立派にウエーブ(浪)が現れます。

今度は……そこから、七八分ばかりコテをすらしして來たところで、同じやうにぎゅうつと押えて、一卷きし、更にコテをすらしして山の方に押し加減にして押えるのです。

すべてはかうして——。たゞこゝでちよつとむづかしいといふのは、自分でコテを當てる場合、櫛で押えながらコテを使ふこと……です。ですからその時は、いつたんよく櫛で毛を、ことに上の毛を解き下して、毛がよれたり、重つたりしてゐないやうにして置いてから、コテを當てるだけの毛へ左の指を入れて揃ひとつてから、その指で毛を挟んで、ちやうどその櫛で揃えて持つてゐるやうそのまゝにしてから、はじめてコテを使ひますといふと、ぎなたにもまことにぐあひよく出來ます。かうするとウエーブ

(浪)が、ぐいや／＼になつたりなんかいたしません。

——ウエーブを深くつけるには？……それにはたゞ、コテを強く巻く、そして押える……といふことばかりでなく、そのコテを巻いてゐるそして押えてゐる時間を、長くして居なければなりません。つまりコテで毛を巻く力と時間、それから適けて押える力と時間とが、強くてそして長かつたなら、それだけウエーブは美事に深くつくのです。

くれぐれも、押えといふことをお忘れならないやうに、押えるといふことは、巻くといふこと、同じいほごに大切なことでもあります。これを十分にやらないといふと、ぎんなに浅いウエーブでも、鮮かには出来ないものであります。

すべてコテは、仕立物に使ふコテの温め加減に、新聞紙を小さくしたの

を、ちよつとコテの間に挟んでみて、それがほんのりと狐色にこけるかこけないかといふ程度に、もしコテが焼け過ぎたからといつて水につけたり濡り手拭で拭いたりしてはいけません。静かに自然に風にさましてお用ひを……。

コテは——かうして使ひ慣らすが一番です——それは？……何よりもかまじをお使ひになつて、練習なさることです。

かまじを、箆笥の鑑か、または柱に紐で縛りつけ、それをちやうご自分の頭の毛のつもりにして、櫛も使ひ、ブラシも使ひ、そしてコテを當て、その使ひ方の練習をすることです。

コテは、火加減さへ注意して、當て方を入念にしますら、毛を切るとか焼くとかいふやうな心配更に無用です。それは毛髪に適度の温度を與

へることによつて毛髪に快い刺激を與へ、毛髪の發生をよくするものであります。

### 根の取り方

根は、鬘の形によつて、多少とも形なり大小なりを變へるのがよろしうございしますが、自分でお結ひになる場合、それほごにする必要はありません。

とはいふものゝ、根の高い低いといふ——つまりその位置は、鬘に應じて變へなくてはなりません。鬘を低く結ふ時は根も低く、鬘を高く結ふ時は、根も高くせねばならぬものです。

根は、櫛でよく解かし揃えてから、そこを指で押えて、残りの毛をぐる

かうしてピンで根を取る……。



かうして元結で根を取る……。





ヘヤーネットのかむり方は

二〇

いと繩なはによります。そうしてそのよつた繩なはの元もとを、頭かみのところところで、小さい横よこ巻まきにして、ピンで止とめます。……これは元結もとむすで結むすつてもよいのですが、ごちらかといふと、自分じぶんお獨ひとりひとりでなさる時は、ピンの方が、し易やすいもので

ピンで止とまりましたら、あとの毛けをぐるぐると、その周しゅう圍ゐに巻まきつけてピンで留とめて根ねをこしらえます。さうかすると初はじめのうちは、根ねをピンで留とめたのでは、すぐゆるむやうに思おもはれますが、練ねれるといふと、便利べんりでまことによいものです。

### ヘヤーネットのかむり方は

ヘヤーネットはダブル二重の方が丈夫じやうぶですが、さうも目め立たつやうですか



ヘヤーネットのかむり方は

ヘヤーネットをかむりて

二一

ら、やはりシングル(一重)の方が、體裁がよろしうございます。近年。絹糸製のが出来ましたが、あれは見つきは、ほとんどシングル(一重)と同じで、しかもダブル(二重)ほごに丈夫です。

毎日、自分で結びかへるお方でない限り、ヘヤーネットはお用ひにならなければならぬもの。これは——両手を網の中に入れて、その手の甲で、一ぱいに網を擴げて、前髪のところからかぶせて来て、所々を小さいピンで留め、後で残つただけをまるめこんでしまひます。

ひさく赤色のお方は、黒のヘヤーネットよりも、褐色のお用ひになつた方が、目立たなくてよろしうございます。

## シャンプーをば

洗髮。すなはち今日の美容術の一つであるところのシャンプーでございます。これにも美容術にいろいろの流派があるやうに、またいろいろの方法があります。こゝではもつとも家庭にふさはしいシャンプー(洗髮)の仕方からお話することにしませう。

オイルシャンプー……(油洗髮)——といふのは、毛髪のばさばさしてゐるお方、切れ毛、フケ毛の多いお方、抜け毛のお方……さうした人が、このオイルシャンプー(油洗髮)をなさると、ひさく効果のあるものであります。

……先づ、毛を解き、手のつけられないくらゐ熱いタオルを、二三枚、頭一面に巻きます。その間に純粹の椿油かまたはオリブオイルを、盃に一杯ぐらゐ湯煎にします。またこれを簡單にやらうとなさるなら鐵瓶の蓋を取つて、その湯氣の上にお茶碗を載せておいてもよろしうございます。

……さて、それをそのまま、手に持たれて、タオルを取り除けてから、毛を幾つにも細かく分け、その分け目へ、油を脱脂綿に浸ませて塗りこみます。そしてもう一度蒸したタオルをかけます。

そうするとまことに心気爽快を覚えてまゐりますから、タオルを取つて手で頭をマッサージします。——両手に力を入れて、鬢にあるやうに、片方づつ内側から外側へ向け、圓を描くやうなつもりで、上皮だけでなく、頭全体をマッサージするのです。氣をつけて頂きたいことは、爪でかくことです。爪でかくといふことは、爪の間に微菌でもはゐつてゐた場合、危険ですから、これは忘れたつてしないことです。——後頭部は、親指を中心にして、やはり片側づゝ上に向けてマッサージします。さうです時間はまづ五分から十分ぐらゐるものです。



かうしてマッサージを

……そうして、ブラシでよく梳いてから洗ひにかゝります。

これは——正式の方法ではありますが、家庭でごく簡単になさらうといふ場合には、夜、お寝みになる前に、油だけ塗つてそのまゝお寝みになり、翌朝にお洗ひになれば、これだけでもたいへん違ひます。

しじゅう、洋髪に結つてゐらつしやると、さうしても油氣が少いものですから、シャンプーの時にでも、十分に油を浸ませるやうにいたします。

……湯は、いくぶん熱いめで洗ひます。(洗髪材料のことは後で申し上げます)……そして乾いたらタニツク(養毛液)をつけますが、抜け毛のする方は、毛生薬をつけ軽くマツサージします。そしてよくブラシをかけます。

……それでもまだ油の足りないお方は、ごく少量の椿油を地膚にだけつけるのです。

油のつけ方は、まづ額から真半分に毛をわけ、更にそれを左右に細くわけて塗るのです。油をつけてからは、マツサージしてはいけません。

——普通の場合のシャンプー……をお話しいたしませう。

まづ、質の柔いタオルを三枚ぐらゐ用意なすつて下さい。そして洗髪材料はといふと、……アルカリ性の強くない良質の石鹼、例へば「アイボリー石鹼」なごを、一個の四分の一を薄くそいで、湯二合程に溶かし、よく冷ましてから、卵の白味の泡立てたのを加へてよく交ぜます。それを瓶に入れて置き、二度にでも三度にでも分けて使ひます。もしそれが濃かつた時には湯をまぜて薄めます。

同じシャンプーでも、日本髪と洋髪の場合とは、その材料を違へねばなりません。ふのりとうごんこなごも結構ですが、椿のかすなごを用ひて

日本式の洗ひ方をしたのでは、毛がいつとりとしてふつくらしませんかから洋髪には不向きです。

洗ふ場合でも、素人の方は、たいてい一度しかお洗ひになりませんが、あれでは汚れがよく落ちませんから、二度か三度くり返して洗ふのがよいのです。殊にいくらよく洗つても、濯ぎが悪いと、乾きも遅く毛を痛めますから、濯ぎをよくいたします。殊に、日本髪から洋髪にしようと思ふ時には、是非とも三回は洗はねばいけません。

洗ひ方は、いきなり洗髪料に浸けないで、まづ湯で十分に毛を温めてから、さつと表面のごみを落す程度に洗ひ、一應湯で流して、二度目の時に正式に洗ひます。耳の周囲や生え際を特に丁寧に洗ひ、頭の地から、だんだんに毛に逆らはぬやうに揉んでまゐります。

洗ひ終つたら、乾いたタオルで地膚を拭きとり、すぐにそれで毛髪を包んで一緒にしほりますと、十分に水気がとれます。そして後の二枚のタオルでまたよく拭きます。地膚が濡れてゐると風を引くものです。汚れがよく落ちてさへ居れば、ドライヤー(乾燥機)はなくとも、すぐに乾きます。

ドライヤー(乾燥機)を用ひるのは、時間を急ぐからなのですが、じつさいは、自然に陰で乾した方が、きのくらの毛髪のためによいかしれません。十分に乾きましたら、そのあとへ、ブラシをかけて流し、養毛液又はフタ取り香油なごをつけておきます。シャンプーして、皮膚を磨擦した後へこれを用ひますと、毛根を養ひ気分も爽快になります。

### 新式鍍當法

新式鍍當法としまして、マーセルウエーブ、ラウンドカール、バツブカール、リングレットカール……など、いろいろにありまして、それ／＼趣を異にしてゐます。

それにまたスピットカールといつて、額の後れ毛を利用して、くるくると巻きつけるのもございます。

スピットカールといふ名稱は、あまり上品ではありませんが、よく西洋人が習慣的に指先に唾をつけてくせをつけるところから起つた俗稱で、(いつたいスピットとは、唾をはく……などといふ動詞です)名前はともかく、額の缺點をかくし、愛嬌が出來て、たいへん面白いものでございます。



スピット カール



マーセル ウエーブ

またパーバネントウエーブといつて、一度ウエーブ(浪)すれば、たいていそれで半年は大丈夫保つ仕方です。これは電気機械を用ひて行ふ方法で、アメリカあたりでは、ほとんど一般的な流行してゐます。日本でも、これを行つてゐる方もないではありませんが、しかし外國人のやうに、柔かな毛で、いつも縮らせておき、しかも毛の色の薄くなるのを好む人達にはよいのですが、日本人のやうな、濃くて太い毛の人には不向きでございます。

マーセルウエーブ

このウエーブの巾はざつと一吋ぐらゐで、これも同じ間隔にかけるのです。なるべくあらく當てた方が、顔はやさしく見えますが、保たせる時、たとへば一二日してから外出の必要のある場合なごには、巾を幾分狭く、強く當て、置く方がよろしうございます。



ラウンドカール

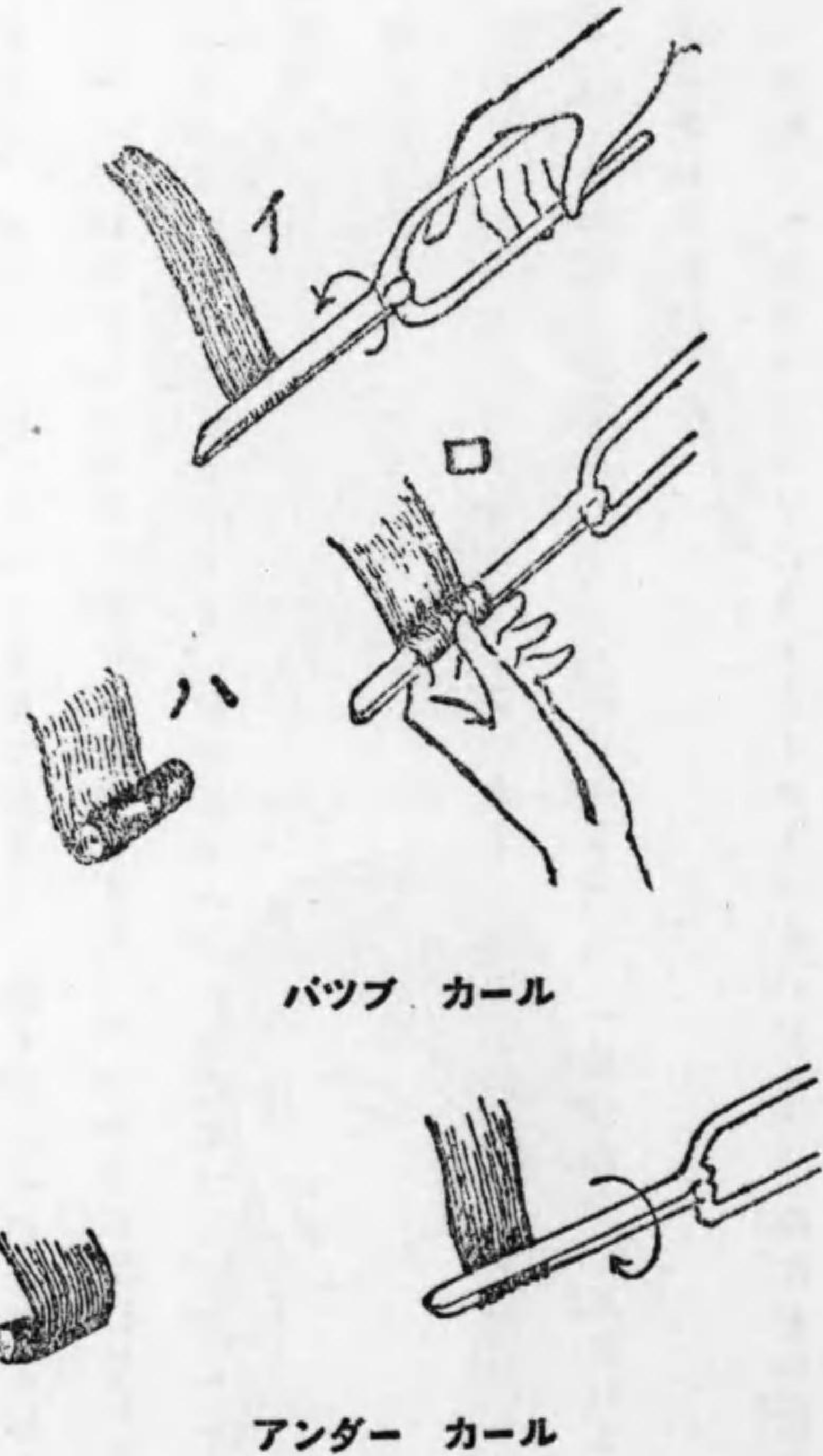
ウランドカール

これは、毛の柔かくして少いお方が、ふうわりさせるためになるのでありまして、ざつと一時四角ぐらゐるづゝに毛を分け、アイロン(コテ)の丸い方に巻きつけ、その上を指でおさへてみて熱く感じて来た頃に放します。すると、1圖のやうになり、それを櫛の先でかくと、2圖のやうな形になります。また別の味があります。

この方は、ウエーブの鮮かさを見せるのではありませんが、アマチュア(素人)の方にもごく容易に出来るやりかたでございます。

バツプカール

これは、斷髪の先をカールするので、お子様方には、すぐに應用出来ます。まづ櫛で毛を揃へてのばし、その毛の一番先きに、イのやうに、アイ





ロンを挟んで、下から上へくるくくと巻いてゆくのです。  
 そして、口のやうに、その上を指でおさへ、熱く感じるのを度として、  
 アイロンの口を少しひろげて静かにぬきますと、ハのやうな形になります。  
 これを上下二段ぐらゐりますと、いかにもふうわりとなつて可愛らしくな  
 ります。

アンダーカール

これは、おとなしやかな方でございます。殊に、和服を召した少し大き  
 い方で、襟元近くのびた毛を、これになさると、一層面白いと思はれます。

リングレットカール

これは、一名メリービツクフォードカールといひます。御存じの通りア  
 メリカの有名な映畫女優メリービツクフォードの髪から出た言葉でござい



リングレット カール



ウォーター ウェーブ

ます。

この時には、手に艶出油をつけて、毛並を揃えます。

そして鬮のやうに、毛を出来るだけ横にひろげ、アイロンを立て、巻き更に今巻いた毛にくつ、けて巻きます。

アイロンの先きまで巻きましたならば、残つた毛先きをその上に巻き上げ、ブラシの先きに艶出油をつけたので、奇麗に撫つけます。

アイロンをぬくと、鬮のやうな螺旋形になります。

#### ウオーターウエーブ

これは、以上のやうに火力を用ひたウエーブと違ひまして、水でウエーブするので、柔らかいくせ毛の人なら保ちますが、普通の毛では長保ちしません。

シャンプーして、毛の濡れてゐるところへ、櫛も微温湯でぬらしたのを鬮に示すやうに櫛をさし、山になつたところへ、抱き合せにまた櫛をさしこんでゆきますと、毛並が揃ひ、きつちりとなりますから、顔に似合ふやうにして、その上にべールをかぶせ、ドライヤーで乾かします。家庭ならそのまゝ自然に乾かせばよろしいのです。

これは、出来上がりが柔らかい波をうち、また毛のためにもよいのですが、非常に毛の細く柔らかい方でない限り、西洋人が推稱する程のものではありません。

東  
髪  
の  
巻

すべては四通りの束髪

……なんとまあ束髪の数多く種々様々でありますることよ。あゝもまあ結び方のあるものか……と、つくづく感心させられます。

しかし、すべての束髪を、よくよく眺め見入つてみますと、束髪の結び方といふものは、さう幾通りもあるものではなくて、たゞそれは出来上つた形の上に、多少の變化を見せてゐるといふのにすぎません。

すべては、四通りしかないものです。それは、

―七三の髷なし

―七三の髷つき

―七三の耳かくしで髷つき

―オールバック耳かくし髷なし―髷つき

すべては四通りの束髪



三 七



オールバツク



髷なし



耳かくし

それで髷なし……の場合には別ですが、髷つきの髷は、七三でも、オールバツクでも、同じものをつけることが出来ますから、つまりは、七三と、オールバツク(たゞ一口にオールバツクといふと、これは耳かくしに限つたものです)と、七三で耳をかくしたのと……この三つがあるばかりです。

ですからして、あんなにも束髪が種々様々と数多く見受けさせられるといふのが、つまるところ、七三にするか、オールバツクにするか、それとも七三で耳かくしにするかのために、毛をさう分けたらよいか、さうまとめたらよいか……といふことがわかりますれば、あとはコテの當て方で形をつくり、裏毛の起し方で膨らみをつけ、まとまつた毛で、自分の好きな髷の形につくれば、出来るといふものです。

# オールバック

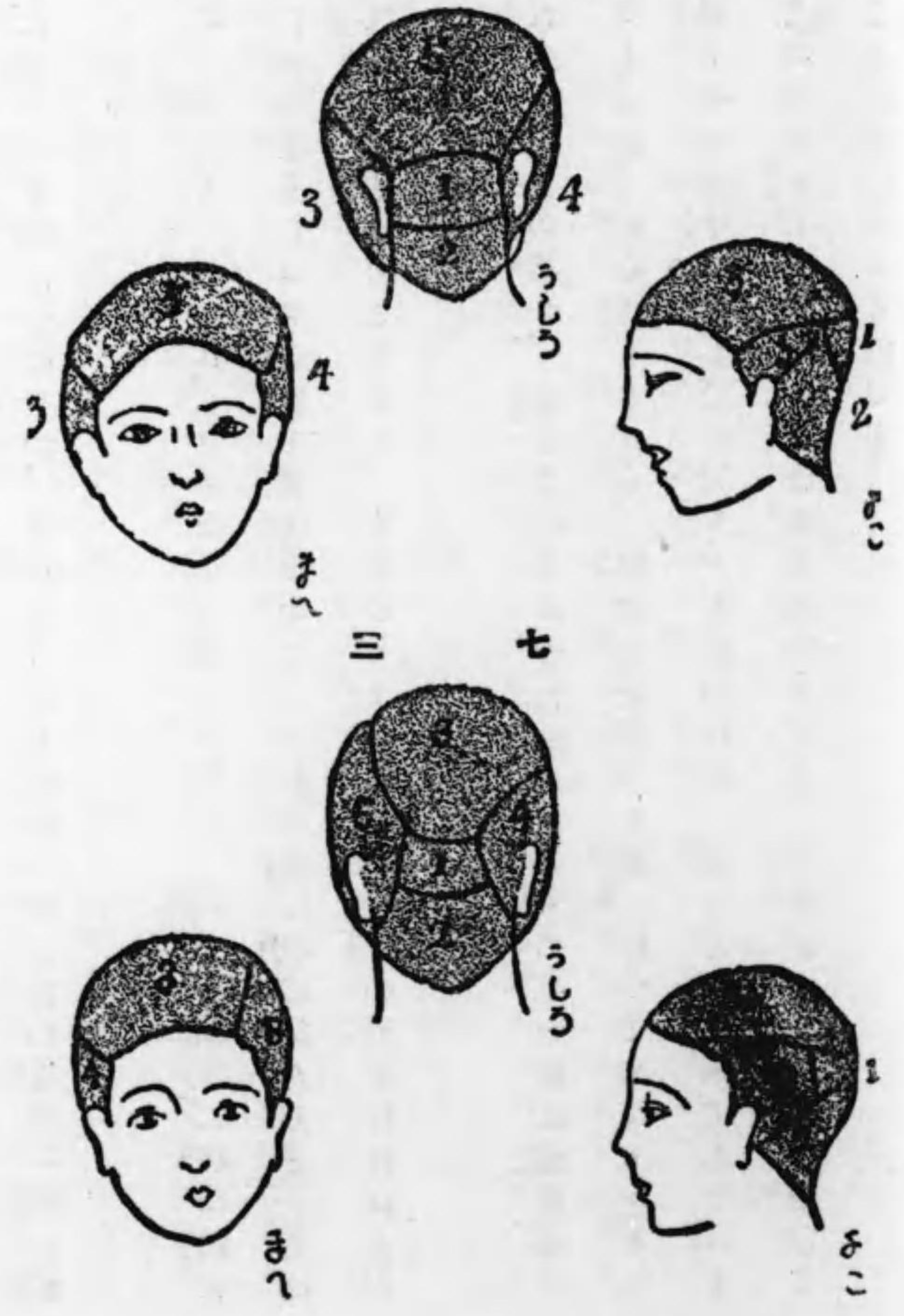
## 毛の分け方

オールバックの毛の分け方は、いちばん易しうございます。  
 ……まづ圖のやうに小額から毛筋を屏形に根の方に入れて、前の毛を分け、次に、耳の上から、根の方へ毛筋を入れて、耳かくしの毛を分け、それから根の形を定めて、毛筋を後の毛の上へ入れますと、1が根の毛になり、2が後の毛になり、3が左の耳かくしの毛、4が右の耳かくしの毛となり、5が前の毛となりました……つまり五つに分れるのであります。

## 結び方

さて、番號の順のやうに、まづ、はじめに、根をピンか元結で結え、そ

## オールバック



オールバック

の根に後の毛を結ひつけるか、それともはじめから根と後の毛を一所に結えてしまひます。

次に、耳かくしの毛に、コテをあて裏毛を起し、34と順序に根に結え最後に前の毛5にコテを當て裏毛を起し、それを後に根に結えると、毛はすべて根にまとまりますから、そのまとまつた毛で、鬘の形を作ればよろしうございます。

それから、この場合、鬘なしにしますには、234の毛を根に全部まきつけてしまひ、形を作りながら、前の毛をすつと後に持つて来てピンを止め、残りの毛を中に押しこむでピンで止めれば、鬘なしが出来てしまひます。このとき少しばかりの梳き毛を入れますと、全體がかう圓味を帯びてひびくよい形になるものです。

### 七三鬘つき

分け方……は、やはり圖にあるやうに、まづ、前の毛を七三に分けます。次に、耳の後からも毛筋を根に向つて入れて、前と後の毛を分け、程よくも毛筋を入れて1のやうに根の毛を取り、根を元結で結え、後2の毛に少し梳き毛を入れて、鬘を出し加減にして、その毛を根に結えます。

さて、七の方の毛を、4のやうに前から毛筋を入れて分け、3にコテを當てる時はあて、裏毛を十分に起し、または梳き毛を入れて相當に膨らませ、全體の毛が前から三の方へ出つ張るやうに、櫛で出しながら根にまとめ、次に前に分けた4の毛で、今作つた前の毛とのつながりが、一つに見えるやうに手際よく搔き上げて根に結えます。これで七の方は美事に出

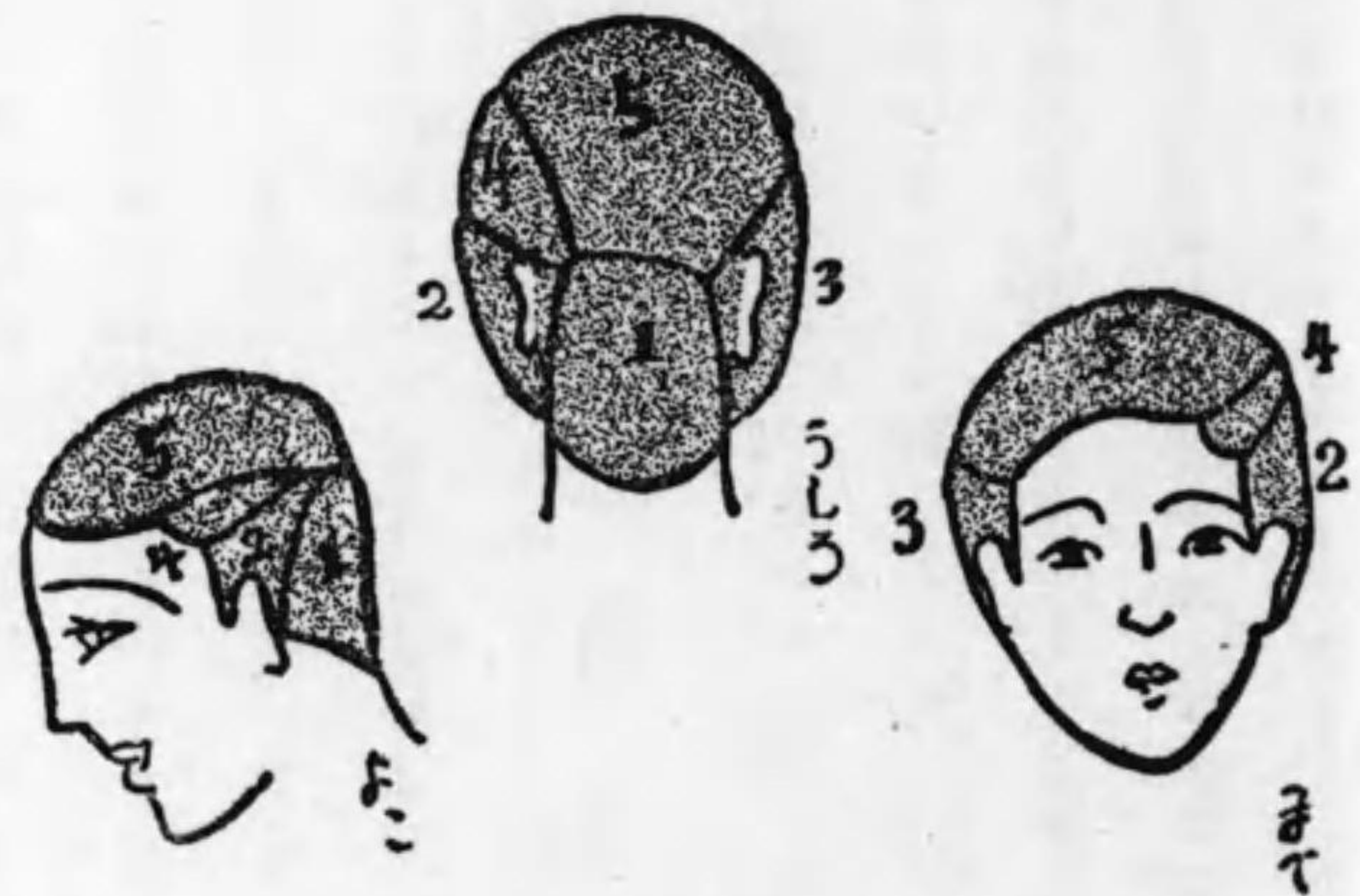
来ました。

こんごは三の方で、この三の方の毛を、ちよつと下に掻き揃えながら、格好をつけて根に結えますといふと、すべての毛は根にままとまりますからして、そのまとまつた毛で、お好みのまゝに髷をお作りになることが出来ます。

### 七三耳かくし

七三それは耳かくしでないのが普通とされてゐます(それを耳かくしにしようといふ場合には、……まづ、はじめ前の毛をとり、次に、耳の上から毛筋を入れて、後と前、そして耳かくしの毛とを分け、後の毛と中の毛を一所にして根として結えるのです。

### 耳かくし



### 髷なし





次に、前の毛を七三に分け、23と耳かくしの毛から、形を作つて根に結え、いちばん最後に、前の七と三の毛にコテを當て、裏毛を起すなり、梳き毛を入れるなりしまして、そこに格好をつけて根に結え、一所になつたところで鬘を作るのでございます。

### 七三鬘なし

七三鬘なしでは、中根を大きくとつてから、七の毛にコテを當てるなり裏毛を起すなりして根にまとめ、次に、後を根の下真直に分けてからの毛を搔きあけて根にピンで止めてから、残りの毛を中へ入れてしまひ、最後に24の毛に櫛を入れて、十分の形をつけてから、やはりピンで留めて格好をつけるのです。

ごく簡単で、さんなお方でも、すぐに獨りで結えます束髪として、

代表的なもの三つを擧げて見ませう。

## S 卷

いちばん簡単な手輕なのは、このS卷です。

オールバックや、七三の耳かくしで、鬘を軽くつけます場合には、結へた毛を、右と左とに二分して、右の毛は、右の下から左の上へ持つて行き左の毛の下へくゞらせます。左の毛は、左下から右の上へ持つてゆきますと、そこに輪が出来ます。

卷

S



その輪の先を、右に出来てゐます輪との中央で、下から右の輪の上へくぐらせ、毛先は両方とも根元に巻きつけますと、横にS字形になります。毛先はピンで止めます。なんと手輕な結び方でございませう。

### クロイバー巻

さうもこの鬘が大きくて華美やかに見えるものでないと、七三風の大きい前髪を出した場合や、耳かくしの前髪をたつぷりとさせたオールバックなごには、調子がとれません。

それにはこのクロイバー巻が、うつつつけの鬘でございます。中根の毛も、髷の毛も、前髪の方の毛も、みな順々に根に集めまして、それを三つに同じいほご分けます。

分けましたなら、上の中央になる毛に、櫛を入れまして、よく梳かし、毛の先に毛心を入れながら、手加減してロールに巻き、そしてピンで根に止めます。

下の右も左も、同じやうにすればよろしいのですが、あなたがもし、ぐつと思ひ切つて大形にしたいと思ひになりますなら、毛を澤山にして、毛心も大きいのを入れ、一つづゝの輪をひろげて、ふつくらさせますと、それはそれはいとも華美やかに見受けさせられます。

もしもあなたが、かうして同じやうな結び方のなかにも、なにかかう少し變化をつけてみたいと思ひになる時には、……中央の輪は、大きめに毛先から毛心を入れて、ロールに巻いてピンで止め、残りの下の左右の毛は、根元の方に毛心を入れてふわりと一つ巻き、ピンで根元に押へ、残り

クローバー巻



の毛をよぢりながら、左と右から、中央のロールに巻きます。

それからもう一つは……中央の輪は、前と同じにこしらへ、下の左右の

毛は、右は右巻きに、左は左巻きに渦巻をこしらへて、根元で止めます。

これもちよつとまた變つた調子が現れるものです。

毛の分け方は、みんな前になる方を三分の一取り、残り三分の二を縦に

二つに分けて、同じやうに三つに分けるのでございます。最初に分けた前

の毛に、リボンを通し、三つに分けた中央で、このリボンを結びますと、

また變つた鬘のやうな調子が現れてまゐります。

### 三つロール巻

これはやつぱり七三でも耳かくしでも、さちらにもふさはしい鬘形です

### 三つロール巻



が、……これは、根元に集つた毛を、横に三段に分け、一番上の毛を梳かしながら、先の毛に毛心を巻いて、ロールに裏の方に持つて行き、根元でピンで止めます。

次に、二番目の分けた毛を、前と同じやうにして、第一に出来ました輪の根元でまたピンで止め、第三の分け毛をまた同様にして、ロールに巻きを三段重ねます。

ぐるりの出し加減と、襟脚なごの長い短いによつて、いちばんはじめの輪を、大ぶりにふつくらさせるもよろしうございますし、また中の輪を大きくして、上下はいくぶん小さめにするのもよろしうございます。……これはその時々によつて、調子をつければよいのでございます。

毛の豊かに多いお方は、毛心を入れないでも、自分の毛を逆毛で、ロ

ールになされば、結構に間に合ふわけでございます。

新型結髪の巻

旭 卷

丸顔のお方にふさはしい美しさを持つてゐるお髪でございます。

いつたい丸顔のお方に似合ふお髪と申しますと、前は高め、髪は横に張らずに前へつき出して、顔の幅をいくらかでも隠すやうにする——お髪の結び方でございます。……しかし、全体の輪廓を隠しますといふと、かへつて不自然になりますので、こめかみのあたりに、ちよつと毛波をつくり輪廓を少し隠してみます……とひごくよろしうございます。

お鬘も地味にしますと、丸顔のお方にはうつりませんので、ふつくり華美やかに結びます……と案外美しく引きた、せることが出来ます。

分け方

お毛の手入が出来ましたら、これを1の圖のやうに分けます。前は七三分け、鬘を薄く残して中根をとりまします。前の七分の方を、またこめかみで二つに分けて前と鬘にし、この左右の鬘は、耳の後まで分けてしまひまします。

次に、中根は上と下に二つに分けます。つごう六つに毛が分れます。

**結ひ方**

上の中根を先に結び、この毛先と下の中根の毛を一所にして結きます。上下とも中根の元結は切らずに置きます。

それから2の圖のやうに、小さい芯を入れ、鬘をつめて根につけます。

第三には、前髪に少し逆毛をたて、程よいふくらみをつけて出し、根元の所で一つ撚つて結きます。

旭巻はかうして結ひます……。





この圖のやうに——次には、左の鬘を前髪との分け目から五分ほき下つた所で一つ分け、それへ逆毛をたて、根元で捻つて、4の圖のやうにして根につけます。この毛を少し額にかぶせるのです。そして左右の鬘に逆毛を立て、前の毛との間に窓が出来ないやうに、分け目の毛を加減して根につけます。

5——前髪、鬘、いづれも上の中根に、いつたんピンで止めてから、先の元結で結び、それより下の中根につけるのです。

鬘は、根の毛を、まづ上を三分の一、下を三分の二ぐらゐの割合で二つに分けます。……(下の毛は二つに分けてS巻にしますのにちやうど頃合ひの太さになるやうに、見計らつて分けなければなりません。……この上の毛に細長い毛芯を入れ、上から毛をかぶせて、先は根にまいてしまひます。

6——そこで、この毛を平に開いて、芯をかくし毛並をかき揃へて置きます。

次に、下の毛を二つに分け、右の毛は上へ向けて捻り、左の毛は下へ向つて捻つて、7——のやうに結び、その毛先は反對の輪にくゝらせて、8——のやうに、後は下へまきこんでしまひます。

最後に、左右の輪を二つばかり捻つて、上の鬘の左右をからむやうにピンでつけるのでございます。

### 撫子卷

もしもこゝに、かなり強度のちぢれ毛、癖毛のお方が居らつしやつて、その方が、天性美髪のお方に、ちつとも見遜せぬやうに、ふつくりと軽く、

結えるお髪の結び方を……とお求めになりますなら、こゝにもつともお氣にかなつた「撫子巻」をおすゝめいたしたう存じます。

ちゞれ毛、癖毛のお方は、ぜひコテを一本御用意下さい。コテはどんなのでも結構間に合ふでございます。

まづコテを熱くしておきます。

それから、髪をとぎ、毛を薄く分けてコテをあてます。コテは新聞紙を

はさみ、狐色になるのを程度とします。

このコテの丸棒を中にし、溝になつてゐる方を外側にして毛をはさみ、毛の根本からなるべく毛がふくらむやうに、外側へむけてコテを上へ引き上げます。ことに、生え際の際はお顔の方に櫛をあてがつて、おるて際の毛をコテではさんで引き伸ばします。

撫子巻はかうして結ひます……。



1 | 毛を少しでも多く分けますと、コテがき、ませんから少しづつ、分けていたします。かうして全部のびましたなら、次のやうに分けます。

分け方

2 | 1の通りに、前は七三にして中根をとり、七分の方は、こめかみから二つに分けて、前髪と鬢にします。左右の鬢は耳の後で鬢の毛と分けて置きます。

結び方

2 | 中根を結び、前髪に逆毛をたて、似合ふ形にふくらませ、毛の少ない方は、少し芯を入れてから中根の際で一つねぢつて根につけます。

3 次に、左右の鬢も逆毛をたて、ふつくりとゆるみをつけて中根につけます。

この中根によつた毛を二つに分けて4、5のやうにして、S巻を作ります。

6 | 最後に、鬢の毛にも、少々逆毛をたて、よく毛をそろへて、鬢を少し出して中根につけ、ピンでしつかり先はS巻の中央にわたし、それより輪の下をくゞらせて下へ出し、毛を7 | 1のやうにかたくよつて、一方の輪の下へ入れこんでしまひます。

仕上はチツクかボマードを、ブラシにつけて撫でつけておくのでございます。

白樺巻

丸い恰好も、軽やかな洋髪の流行以來、ほとんご影をひそめております。そこで芯を多く用ひないで、お髪もごくく、少くても、自毛で十分にふ

つくりとした感じを持たすことが出来るやうに、工夫されたお髪をお話し  
いたします。

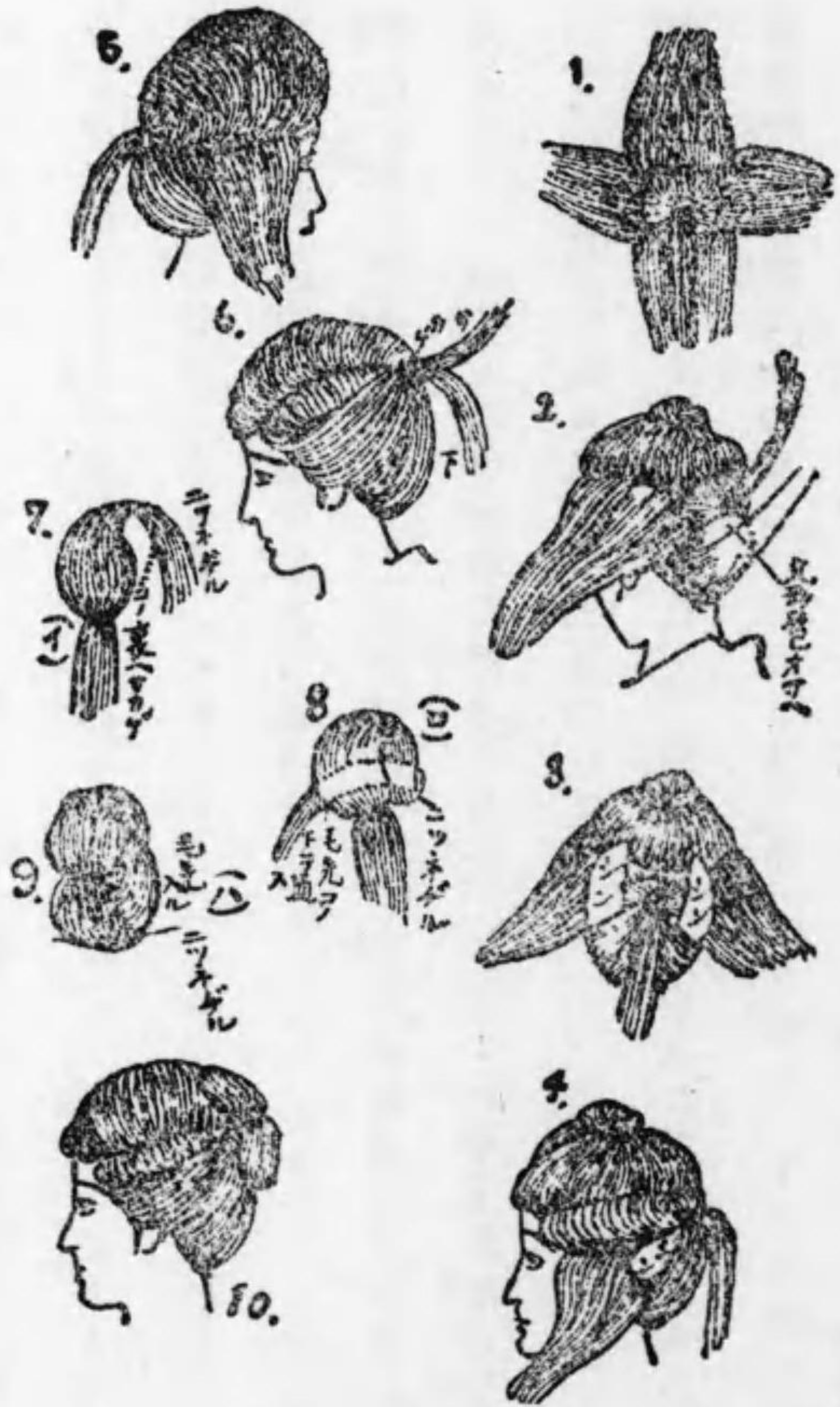
分け方

前は七三に分け、中根をとります。  
次に、前の七分の毛を、こめかみで二つに分け、中央を前髪とし、左右  
を鬢にいたします。鬢の後は耳の後まで分けてとりますと、1—のやう  
に、まはりがつさう四つに分れます。

結び方

中根をしつかり結みます。  
次に、巻へ、2—のやうに直径二寸ぐらゐの丸いものをあてがつてお  
いて、髪の毛に少々逆毛をたて、2—のやうな高さに毛を揃えます。逆

白樺巻はかうして結みます。……



毛は毛の多い方はいたしません。また、鬚の毛を揃へますのに、あまり毛並を下けて解くと窓が明きすぎ、高くしすぎるこ、鬚がつまります。

さて、毛が揃ひましたなら、バナ、形の毛芯を3——のやうに入れて根につけ、芯の両端は元結で結びて置きます。

次に、前の三分の毛を、上の分け目から五分ほぎはなして分け、これに逆毛をたて、毛並を後へ向けて解きそろへ、4——のやうに前の形をと、のへて、根元で一捻りして中根につけます。

前髪は、やはり少々逆毛をたて、芯をいくらか入れてふつくりと出し、これを中根の際で一つ捻つてつけます。(5——)

そこで、左右の鬚に逆毛をたて、顔うつりよく形をつけて、中根際で捻つて根につけてしまひます。(6——)

これで、まはりが出来ましたから、鬚を結びます。

鬚は、毛を二つに分け、上の毛の表面に逆毛をたて、7——のやうに上にまき、先毛を折りかへしたところ(イ)二つに捻り、その裏側へ逆毛をたて、8——のやうに毛先を逆に戻して(ロ)鬚の下から左側へ出し、下の毛と一緒にいたします。

下の毛は、裏へ逆毛をたて下へ向けてまき(リ)——(ハ)で二つ捻り、毛先は上に梳き上げ、上の鬚の輪の中へ通し、残り毛は下へまきつけて置きます。そして、上の輪の下へは、スキ毛をバナ、形にして入れ、下の輪は丸い芯を作つて入れて形よくピンでとめ、まはりにはブラシにボマードをつけて撫でつけておきますと、艶々しいお髪になります。

# 曙 卷

これはお嬢様向のお上品なお髪でございます。

まづ、1—のやうに、中根、巻、前髪、兩耳の五つに分け、中根をとり、その毛を下におろして、巻の毛と一緒にして結えます。

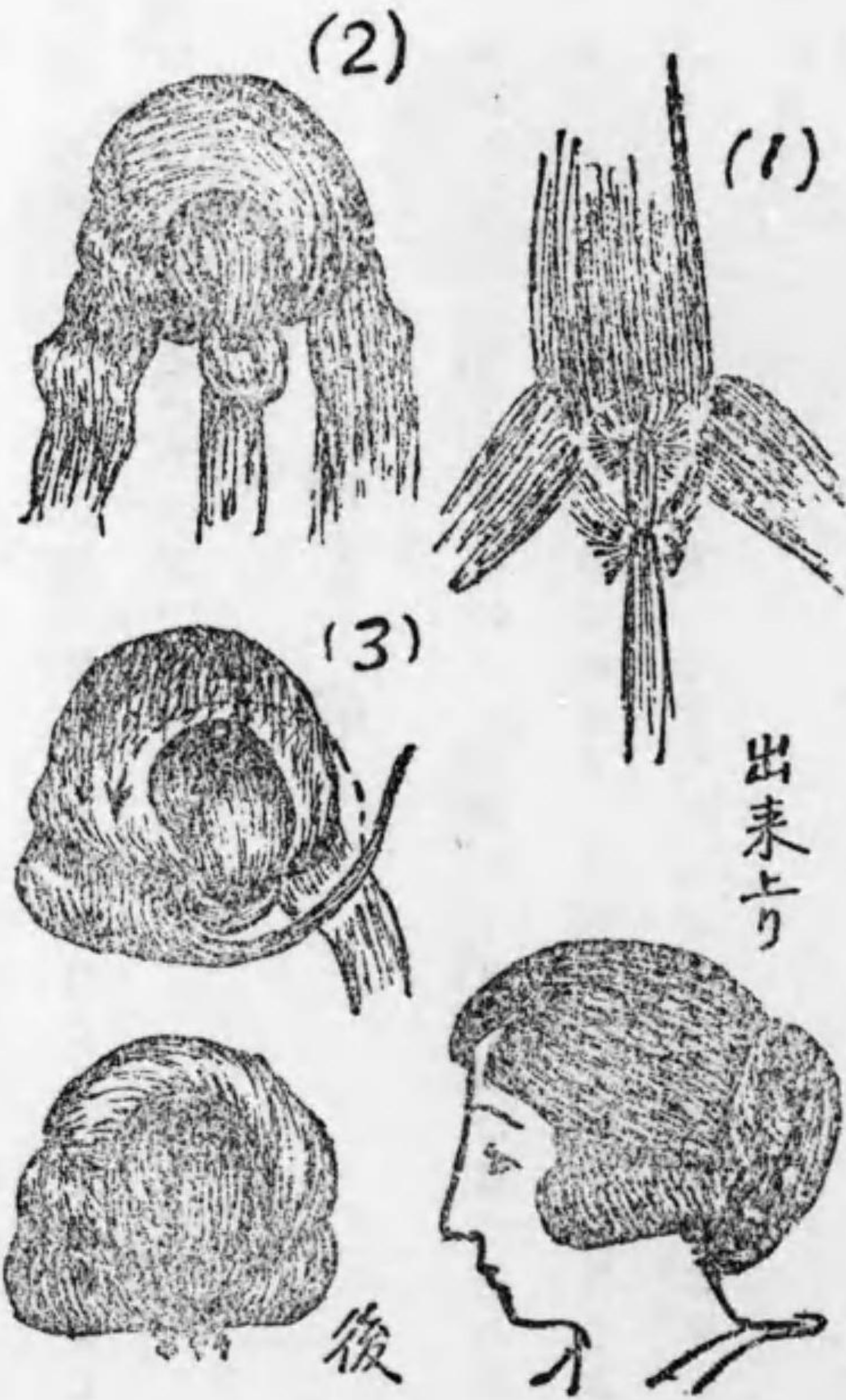
次に、兩耳にコテをかけます。

次に、前は七三に分けて、お顔に似合ふやうにウェーブをかけ、逆毛をたて、普通の半バックと同じやうに形をと、のへ、根元へ結びます。

次に、2—のやうに、縦にS字型をこしらへ、ピンでとめて置きます。それから耳の毛に逆毛をたて、形をと、のへ、3—のやうに、鬘の際まで持つてゆき、上むきにねぢりながら、手先を鬘の周圍に巻きつけます。

曙卷はかうして……

出来上り

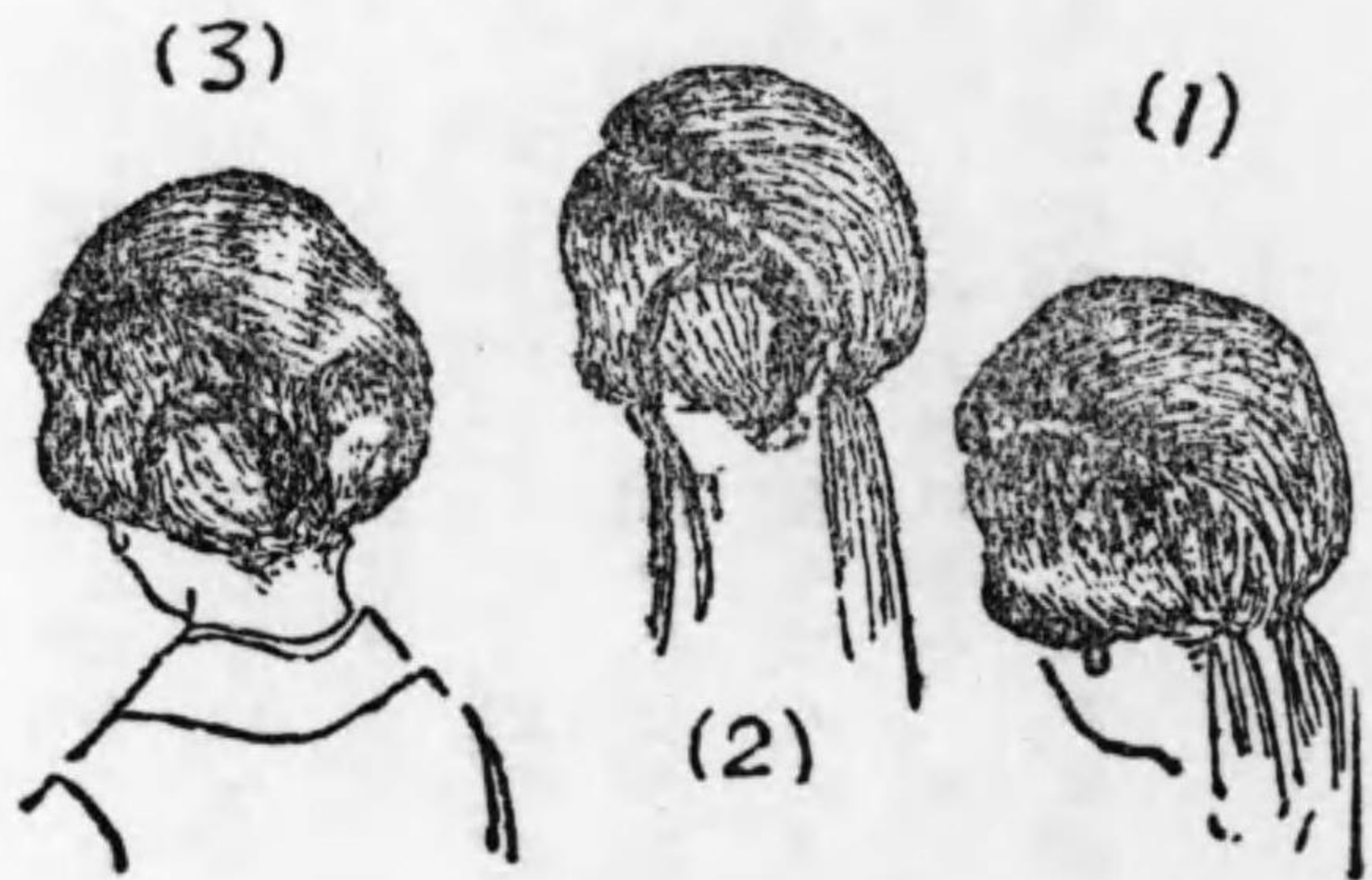


残りの片方も同様にしてつけますと、下圖の後のやうになります。  
耳を後でつけるのが、この髪の特に工夫されたところでありまして、耳の形が恰好よく出来るのでございます。

### 玉椿巻

お下けから洋髪になさらうといふお嬢様や、女學校に通つてゐらつしや  
るお方なごに、ふさはしい、さつぱりとした可愛らしいお髪でございます。  
結び方も、ごく簡単ですから、あなたにもいとも容易にお出来になるの  
でございます。

先づ、前を七三にし、後は反對に前の三分の方を七分とるやうにして、  
全體の毛を分けます。



玉椿巻はかうして……

前の三分の方に三段ぐらゐる、七分の方に四段ほぎ、軽くウェーブをかけた、お顔に似合ふやうに恰好づけながら、耳のところもそのまま、自然にして、耳が見える程度にして後へ梳かし、両方とも別々に、根を後の下の方で、1——のやうに結はきます。

次に、2——のやうに、左の毛を二つに分け、編んでねぢりながら、左の方に輪をつくり、餘つた毛の先は下側へ入れて、ピンでとめます。

右も、同様にして輪をつくると、出来上ります。(3——)

最後に、もみ上げの毛を、カールしますとたいへん可愛らしく見えます。なほ、耳の後の邊に、小さな造花なごを一輪さしますと、一層引立ちます。

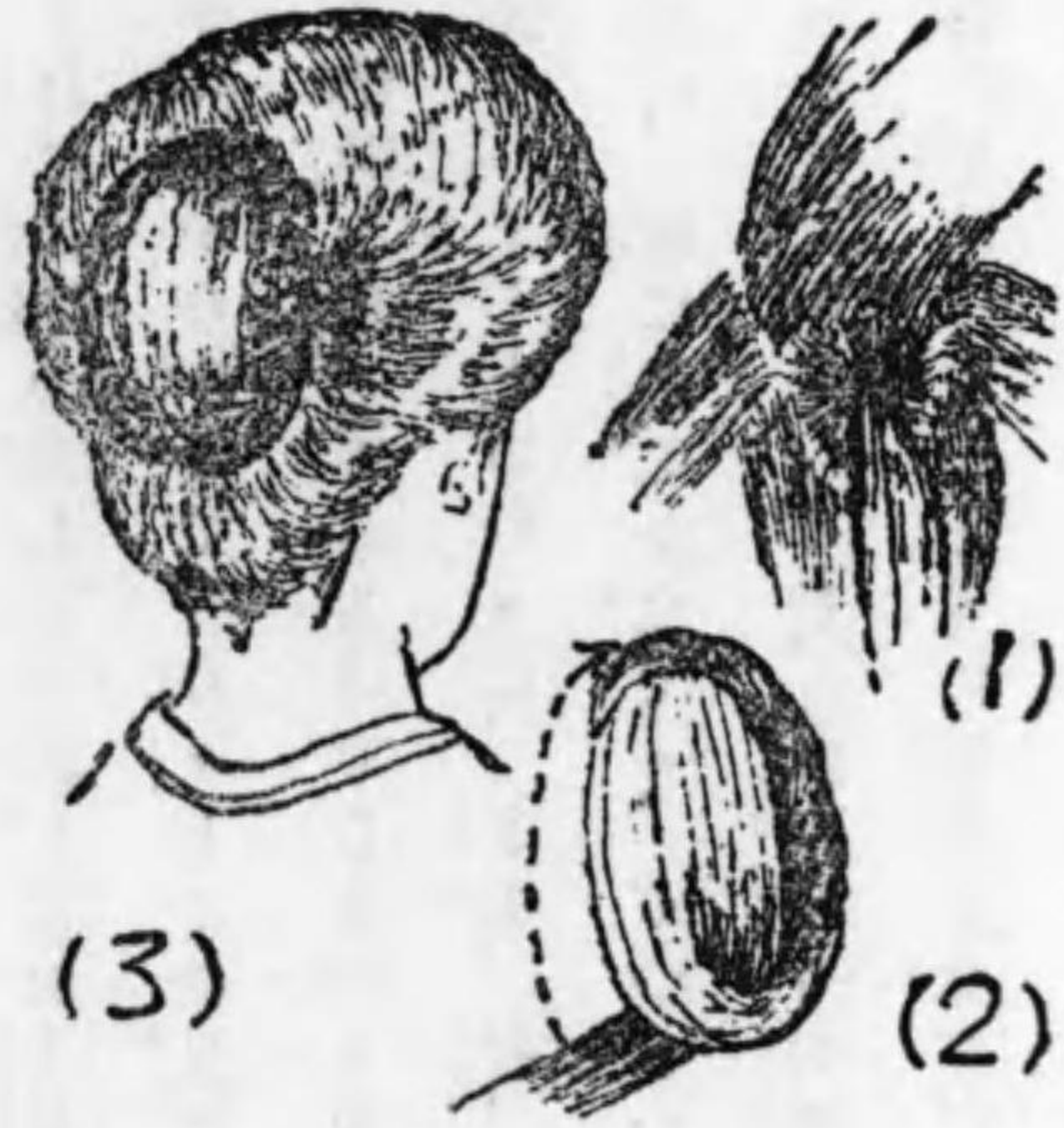
### 八 千 代 卷

これは襟足の美しさを現したお上品な若奥様向のお髪でございます。前を真中から分けて、若々しさを見せてゐます。鬘も簡單にして、平和といふ精神を現してゐるのでございます。

先づ、1——のやうに、中根、鬘、前髪、兩鬢に分け、中根を結きます。次に、鬘に逆毛を立て、ぐつとつめ加減にして結へ、前髪は、前二寸ぐらゐるを真中から分け、奥の残りの部分に、逆毛を立て、根につけます。前の毛は、左右ともに逆毛を立て、コテでいくらか前へ出し、芯を少し入れてつけます。

次に、兩鬢に逆毛を立て、芯を加へてつけます。





八千代巻はかうして……。

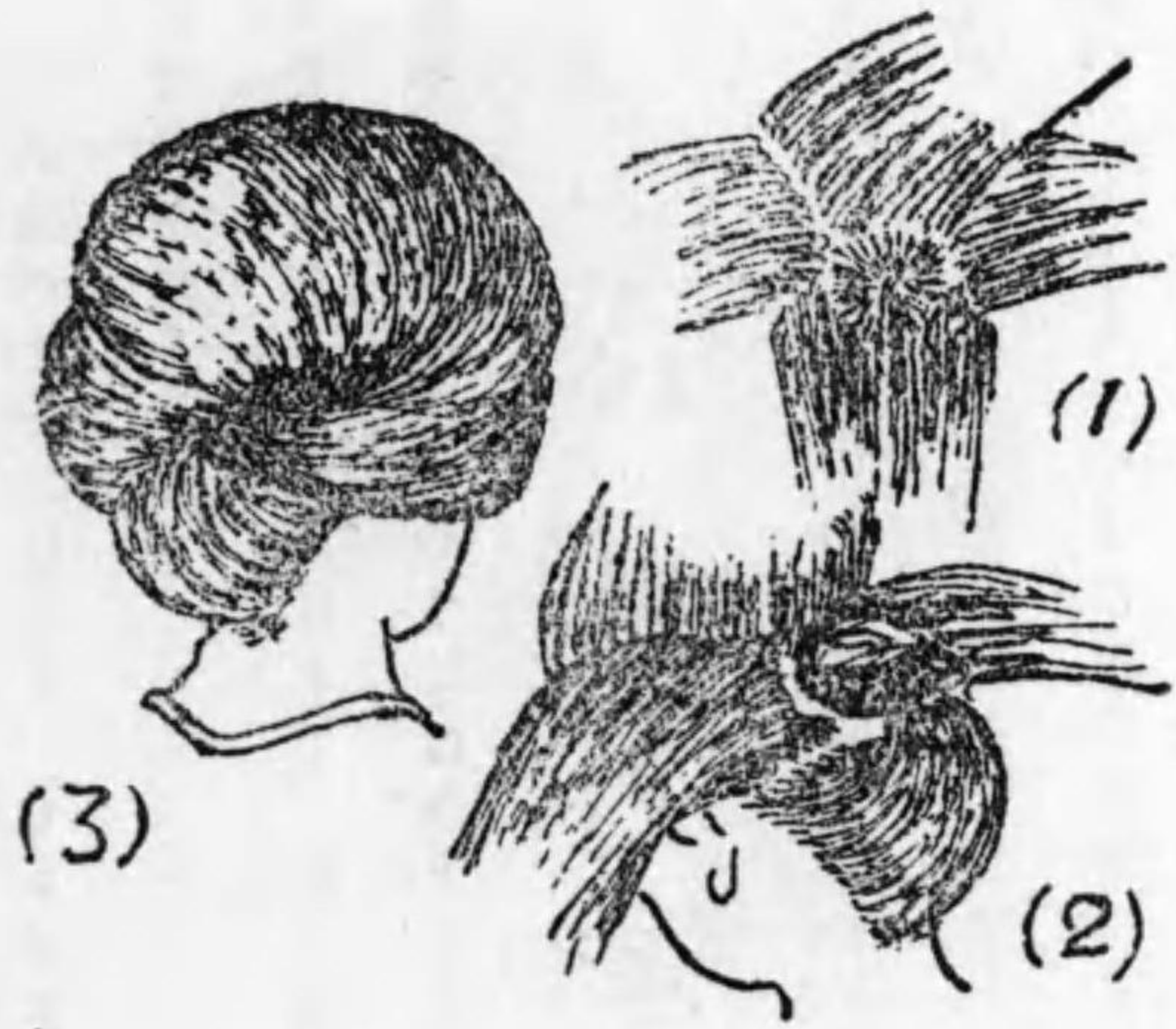
鬚は、先づ根の毛を奇麗に下に梳かし、2——のやうに下に二つに分けて、左の方の毛を上にして、ピンでとめ、その毛を捻ぢりながら、右側に添へて輪をつくります。

次に、右の方も同様にして、ねぢりながら輪をつくり、餘分の毛は中へ入れると、3——のやうに出来上るのでございます。

### バツト巻

これは、落ちついた、粹向きの若奥様にふさはしいお髪で、日本人の特徴であるところの襟足の美を生かすために、苦心された髪でございます。

先づ、1——のやうに四つに分けまして、中根とする一つを、髷のところへ逆毛を立て、上に梳かし、落とし髷にふつくりとつけ、先の毛はSを作



マツト巻はかうして……。

つて芯しんといたします。(2—)

前の三つの上の一つに、三枚まいぐるるウエーブをかけて、これを斜たのに梳すかし、芯しんのまごころへ来て一つねぢり、毛けの先さきは、適宜てきぎに丸まるめて中ちゆうへ入いれます。右みぎの耳みみをつくる毛けに、二枚まいぐるるウエーブをかけ、その毛けを、根本こんぽんを中ちゆう心しんにして持もちながら、斜たのに梳すかして芯しんのところとめ、左ひだりも右みぎと同様どうように、下したにねぢり、中心ちゆうしんでとめ、毛けの先さきはむすんで中ちゆうに入いれると、3—のやうに出で來き上あるのでございます。

### 榮 卷

根ねの低ひい髪形かみかたちが、大分おほぶんに久ひさしく續ついてまゐりましたから、今度こんどは氣分きぶん轉てん換かんに、すつと根上ねあがりりに結むすつたお髪かみに、祝福しゅくふくの心こころを現あらわさう……といふのでご

ざいます。

お髪には、コテをなるべくあてないことにいたします。

まづ、1—のやうに四つに分けます。

前髪の幅は、お顔の形によりまして、多少違へなければなりません、それはあなたのお好みにお任せするといたしまして、こゝでは、額の幅三寸ぐらゐの前髪にとります。その深さは二寸ぐらゐにいたします。

また、髷の毛は、圖で御覽の通りに、なるべく細くいたします。これはこれまでの洋髪の分け方とは少し違ひますが、かういふ細髷にいたしますと、髷の形もよく、髷の毛も髷といつくりと折り合ひがつきまして、後つきが、ほんによい恰好になるのでございます。

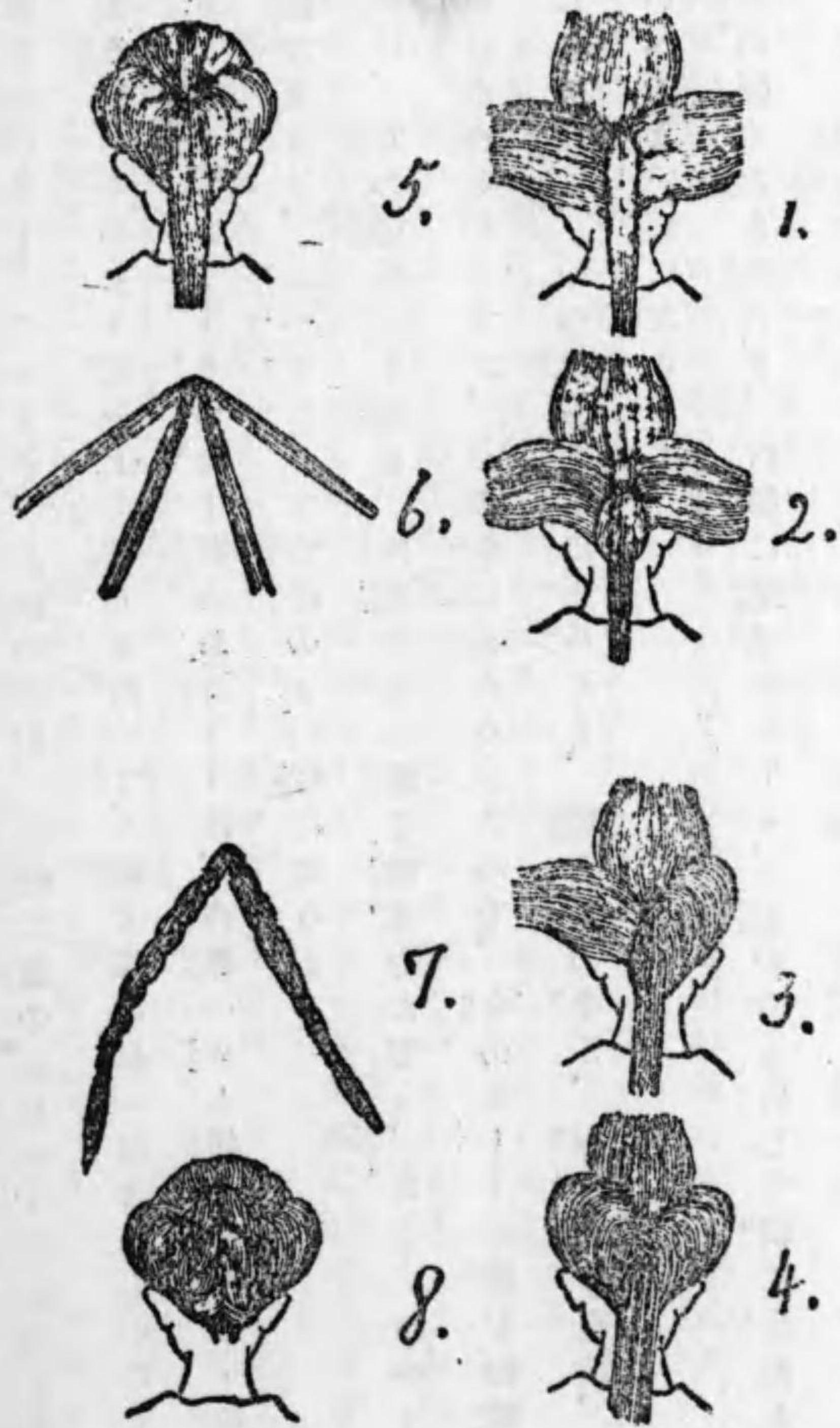
かうして分けましたならば、髷の毛を上梳して行つて、2—のやう

に根を結びます。そのとき、お頭の臺が、自然に髷の出るやうになつてゐるお方は、そのまゝ毛を上梳して行つて、緩く根を結べばよろしいのですが、俗に云ふ——そつたて頭のお方——は、内側へ少し逆毛をたて、根を結びますと、ふつくりして恰好のよい髷になります。

次に、右の鬢をよく梳し、内側の毛に軽く逆毛をたて、3—のやうに根に止めるのですが、その根に止めるところで、今の3—の圖で御覽になるやうに、一つ捻ぢて根に止めると、髷と鬢の毛が、びつたり合ひ、たいへんよい形になります。

左の鬢も右と同じく、内側に逆毛をたて、右のやうにして根に止めます。もし逆毛のお嫌なお方は、梳き毛で細長い小判形の芯を作つて入れると、よろしうございます。(4—)

榮卷はかうして……。



次に、前髪ですが、前髪だけには、ちよつと生え際のところへ、コテを  
 當て、形を作るとよろしうございます。

そしてこれもやはり内側に逆毛をたて(逆毛のお嫌なお方は、やはり梳き  
 毛の芯を入れて)5—のやうに周圍を作ります。

鬘は、根に結んだ毛をよく梳して、6—のやうに四つに分け、7—  
 のやうに細に撚つて、それを8—のやうに二つとも下へ垂らして行つて  
 鬘の生え下りから一寸ぐらゐる上つたところで、毛先を外側からまた上へ巻  
 き上げてゆき、上で左右を一つ結んで毛先を中に入れてしまひ、ところご  
 ころをピンで止めます。

# 橘 卷

これは、軽く、短い毛や少ない毛のお方にも、楽々と結べますから、おすゝめいたしたう存じます。

先づ、1—のやうに、前を四分六分にして巻をとります。

巻の毛は、2—のやうに上下二つに分け、上の方は、また二つに分けて細のやうに捻ぢ、小さいピンで止め、下の毛を、圖のやうに下の方で結んで根といたします。

そして、くるくる巻いた上に、丸く平たくした梳き毛を載せ、ピンで止めておきます。

次に、前髪の六分の方の毛に、マーセルウエーブを四段かけます。

橘巻はかうして……。



1.



2.



3.



4.



5.

そして、ウェーブの裏には軽く逆毛をたて、一番下のウェーブの裏に、細長い梳き毛を入れて毛先を捻ぢ、根に止めます。

左の三分の方の毛も、同じやうにマーセルウェーブを三つほごかけ、逆毛をたて、いちばん下のウェーブの裏に梳き毛を入れ、毛先を捻ぢて根に止めます。——これで周囲が出来たのでございます。

次に。毛先をよく梳して、四つに同じやうに分け、その一つをぐるぐる捻ぢて、4——のやうに一つの大きな輪をこしらへます。

そのとき、3——の圖で御覽になりますやうに、根の上の方が、2——の圖のところに入れて入れた梳き毛のために、びよこんと高く持ち上つて、ふはくして居りますから、ちやうどそこを、ぐるつと巻くやうにして輪を作りますと、その毛も鬘の一部となります。

それで、あとは、5——のやうに、毛を捻ぢて右と左に巻き、最後に残つた毛で、根の元結ひを隠すつもりにして、根のまはりにぐるぐる巻き、ピンで止めます。

在來の洋髪は、ぐるりの毛と鬘とは別々になつておりましたが、これはぐるりの毛も利用して鬘の形をとつた、新しい試みでございます。

この鬘ならば、みんなにお髪の少いお方でも決してお心にかゝることはないのでございます。

このお髪を後から見ますと、鬘の形が、香ふくよかな、そしてお目出度い祝福の象徴の、あの右近の櫛に、そつくりそのまゝ似てゐるのでございます。

# 白萩巻

この頃は、黒髪くろがみの美うつくしを十分じゅうぶんに發揮はたらしたコテ目こてめのない髪かみが、流行りゅうぎょうの中心ちゅうしんになりかけてまゐりました。

この白萩巻しろはぎまきも、素直すなはな黒髪くろがみの美うつくしを見せたお髪かみでございまして、あの何なにとはなしに、なつかしみのある夜會巻やかいまきに似にてゐて、もつと華はやかですから、若いお方おなたがお結あけになるのにまことにふさはしいお髪かみでございまして。

初はじめに、前髪まへがみは、オールバックオールバックの時のやうにとり、中根なかねを細長ほそながく鬢びんは耳みみの真上まへまで、それより後あとは髷まげにして、後あと、真中まなかで左右さゆうに分わかけます。

1—。中根なかねを結むすきましたら、元結もとむすはそのまゝにして残のこし、先まづ前髪まへがみを作つくります、これは前まへで、お顔おかほに似に合あふ恰好かたぎにするのでございまして。……そ



白萩巻はかうして……。

れを、中根で結び、元結はまだ切らずに、両方の鬘をつけ、2—のやうに、左側の鬘を恰好よく、鬘との分け目が目立たぬやうにつけてから、元結を切ります。

右側の鬘は真中で捻れるやうにして根へ持つて行きましたら、別の元結で3—のやうに全部を結みます。

鬘は、右を左より倍ぐらゐの分量にとり、左右二つに分け。4—のやうに捻ぢて、一つ輪を作り、先を左の毛と一緒にして、5—のやうに捻ぢて、右下へ出し、それをまた捻ぢて、上よりも小さい輪を6—のやうに作り、次に、左で、7—のやうにし、まだ毛が残つて居れば、また右と左へ小さい輪を作ると、8—のやうな鬘が出来ます。

毛の少いお方は、鬘をお用ひになりますと、お好きな形に出来ますが、

お年を召したお方は、あまり大きくない方がよろしからうと存じます。



美  
容  
の  
卷

## 美しさの秘文

すつきりゝすがすがしい美しさ——。それを形造るには、髪の結び方からちよつとした衣紋のつくろひやう、帯のしめ具合まで、みなそれ／＼に役立つものとなっておりますが、美しさを浮き出させるのに、いちばんむづかしく、いちばん時日のかゝりますのは、皮膚をととのへる……つまりお顔はいふまでもなく、衿や地肌を美しくする……といふことでございます。

美しい地肌になりますには、やはり内部から氣をつけてかゝりたいものでございます。つまり、まづ、健全な肉體を保たねばならないので、それには、何よりも、運動を適宜にして、便秘なきのいやうに、便秘症の人

は、毎朝必ずコップに一杯の冷水を、食前に飲用いたしますことは、さな  
たもよつく御存じのこと、存じます。

食物……。これも皮膚ともつとも深い関係をもつものでありまして、新鮮  
な果實や野菜は多く頂きますほぎ、血液の循環もよく、皮膚を美しくして  
くれます。果物は、文明人ほぎ多く攝取するのでございます。ビタミン  
Aを含む肉類や、魚類などは、栄養の方からいひましても、適宜に頂くべ  
きは、いふまでもないことでございます。

さて、これらの内部からの注意は、美容上、いつも怠つてはならないも  
のでございますが、外部からの、もつとも効果の早い美しさを浮き出させ  
る法は、何といひましても、マッサージ、つまり……。美顔術でございます。  
御家庭で、至つて簡単に出來ますマッサージの法をこゝでお話し申しま

せう。

これは、タオルとコールドクリーム(油性)さへあれば、よろしうございま  
す。

まづ、タオルを熱くいたしまして、顔や襟を蒸し、二三回くり返します  
と、皮膚の毛孔が開いてまゐります。それはちやうど入浴しましたやうに。  
次に、油性のクリーム(ハイゼニッククリーム)を、萬遍なく塗りまして、  
一度拭きとつてしまひます。それから、両手の指で靜かに摩擦をはじめま  
す。これは、下から上に向けて、額は横に、眼のまはりもそれに沿つて、  
決して顔の造作やきめに逆らはないやうにしなければなりません。

ものゝ十五分間あまりも摩擦をつゞけてゐますと、指先も顔も、ほつと  
櫻色になつてまゐります。そこで、洗粉のとかしたのを脱脂綿につけまし

て、クリームの残りを奇麗に取り去つてしまひます。この時は、石鹼よりも洗ひ粉の方がよく落ちます。

そしてマッサージをいたします時は、必ず、お顔や襟といつしよに、手もお忘れになりませんやうに……。手は、やはり手先から心臓へ向けて、逆に摩擦するのでございます。

マッサージは、夜、お寝みになります時、すつかり晝の白粉を落とすと同じ時に、おやりなさいますのがよろしく、毎日でも隔日でもよろしうございます。

かうして、マッサージをいたしておりますと、ほんの暫くのうちに、見違へるほご肌が美しく輝き、ニキビ、ソバカス、吹出物なごも取去ることが出来ます。それに眼に見えて血行もよろしくなりますし、小皺なごふせ

ぎますのは、いふまでもございません。

マッサージをいたしますと、かへつて小皺がよるものだ……なごとおつしやるお方もありますが、小皺のよるやうな下手なマッサージをなすつてはたいへんで、それは強く摩擦し過ぎたり、皮膚に逆らつて摩擦したりするからでございます。たゞ今お話いたしました通りのマッサージをほごこしましたなら、絶対にそのやうな心配はなく、いつまでも若々しく艶のよい皮膚を保つことが出来ます。

よく色が黒いからといって、過酸化水素水を、お用ひになるお方がございますが、あれはひどく皮膚を損ねますから、脂肪性のお方ならともかく荒れ性の方なごは、まづお用ひにならない方が、よろしうございます。

過酸化水素水をつけて、少し色は白くなつたが、生え際や眉の毛が赤く

傷められてしまつて、なか／＼なほらない……と困つてゐらつしやるお方をよくお見受けいたします。これによつて傷められた眉なごは、今度新しくそこに生え代るまで、さうすることも出来ないでございます。お用ひになる時は、よほご御注意なさいませんと、とんだ副作用にお苦しみになることがございます。

それから、美しさを浮き出させるのには、さうしても、髪を美しくせねばなりません。地方のお方は、ごちらかと申しますと、髪のに艶がありませんが、これはひごくお顔に關係するものでありますから、髪は、大切に洗ひ、綺麗に艶よくして置かねばなりません。

それから、少し贅澤かも知れませんが、毎日三合ぐらゐる牛乳は、お召上りになるが、よろしうございます。それはいつまでも老いを知らぬ艶やかな肌でゐられます。

もしも、牛乳のお嫌ひな方は、冷水をぎん／＼召上るとよろしうございます。美容上、水は胃腸を害ねぬ程度に、いくら召上つても有益無害でございます。

### 永遠の若さ秘事

若い時は、皮膚が滑らかですから、白粉ののりがよく、ぎんなお方でも綺麗に見えますが、その時に、若さに任せて美しさに圖に乗つて、つひ亂暴をしますと、早く小皺が出来たりして、ひごく容色の衰へるものがございます。

いつまでもいつまでも、永遠の若さを我物となさうといふお方は、お若

い時から心して、皮膚の手入を、氣長にやさしくなさいますことこそ、望ましい限りでございます。

——洗顔には、夏冬ともに微温湯をお用ひなさい、熱い湯や冷たい水を使ひますと、皮膚を刺戟して早く皺が出来ます。年中冷水を用ひるのがよい……といふ説もありますが、これは小さい時から馴れてゐる人の外は、やはり微温湯に限ると思ひます。

——洗顔には、柔いガーゼの手拭をお用ひなさい。

——石鹼を、手拭につけて、ごしくお洗ひにならないで下さい。

良質の石鹼を、泡だて、そつと洗ひます。

——就眠前には、必ず洗顔して汚物をお落しなさい。

その儘にして休みますと、汚物が皮膚へ泌みこみ、長い間にはたいへん

きたなくなりません。また、外出先からお歸になつた時も、洗顔すればなほ結構です。

——あまり洗ひすぎないで下さい。

急に綺麗にならうとして、洗ひすぎますと、かへつて皮膚をいたため、皺をつくりません。

——お顔は、出来れば糖の汁で洗顔して下さい。

糖を使つてゐますと、垢抜けがします。皮膚のきめが細かくて、そばかすの出来さうなお方は、小さい時から糖汁で洗顔しますと、未然に防ぐことが出来ます。また既に出てゐるお方は、年中用ひますと、いくぶん薄くなります。

——入浴の際は、顔をいちばん後で洗つて下さい。

湯氣で蒸されて、毛根がすつかり開いて来てから、そこをそつと洗ひます。

— お湯から上り際に、微温湯で顔を二三回摩擦すると、皺を防ぎます。洗顔した後は、よく水分を除けて下さい。

ことに、冬季は、よく摩擦してから、外へ出るやうにいたします。

— 時々、美顔術をほごして下さい。

汚點もなくなり、皺を防ぎます。

— 入浴の際、マッサージルーラーをお用ひ下さい。

ルーラーで、目尻や額を摩擦しますと、皮膚の筋肉が平になり皺がとれます。若いお方で、額に皺があるのも、かうすると、わけなくなほります。

しじゅうルーラーをお用ひになりますと、皺が出来ず、いつまでも美しさを保つことが出来ます。

ルーラーの代りに、手でよくマッサージしても効果がございます。

— 化粧品を質をよく撰び、あれこれと取換へぬようになさい。

— 頬紅を、肌へちかにつけぬようにして下さい。

紅でやけて黒くなりますから、一度水白粉なごをつけた上に、つけるようになさい。

— 常に氣を若く持ち、適度の睡眠をとつて下さい。

睡眠の大切なことはいふまでもございませぬ。十分に睡眠をとれば、心持も爽快ですから、したがつて顔も晴れ立ちます。

— 無駄な心配はしないで下さい。

心配しても、甲斐のないことを、くよくよ思つてゐると、身體も悪くな

り容色が衰へますから……。

## 美 眼 法

眼は心の窓とも云つてゐます。また、表情の源とも云つてゐます。

第一印象に、いちばん深い感じを植えつけてますのは、眼でございます。

眼を美しく保つこと。これこそ美人そのものへの第一要件でございます。

何よりも、まづ、よく眠ることでございます。暗くしては寝られないお

方でしたら、有明けの燈に、掩ひをかぶせて、ごく軟かい光にふうわりと

包まれて眠るようにして下さい。

眼が疲れましたとき——は、眼の周圍にマッサージをすると、よろしう

ございます。あながちクリームをつけなくてもよろしいのです。人差し指と

中指を二本揃へて、目頭から目尻にかけて、軽く擦りますと、非常に眼の

疲れも治りますし、同時に、眼の窪みも治りますから、中年の御婦人は、

これをお続けになるとよろしいと存じます。

また薬を注して、眼を綺麗にする法もありますが、それは一時的のもの

ですし、あまり眼のためにはよくないこと、存じます。

なほ、外から働きかける美容を、少し具体的にお話しいたませう。

——小さい眼を、大きく見せる場合には、眼を瞑つてゐて、瞼へ肉色の

白粉をほんのりとさします。また瞼をぐるりつとベツカンコのやうにむい

て睫の際を二厘ぐらゐの幅に薄墨でほかします。

——瞼しい眼を、軟かにする場合には、眼を開いてゐて、眼の縁を少し

も残さず、際ぎい睫の縁まで白粉を塗ります。



— 出眼を、見よくしますには、眼の縁を、顔のまごよりも薄く白粉を塗ります。

— 反対に、窪んだ眼を、見よくしますには、眼の周囲に、肉色の白粉をうつすりつけます。

— 上り目のお方は、白粉よりも頬紅で加減する方がよろしうございます。それには、頬紅を眼の縁から下の方へほかすやうにしますと、見る人の注意は、頬紅に集まりますから、つまり上の方の注意がおろそかになつて、あまり眼の上つたのが目立たなくなります。

— 下り眼は、これと反対に、目の上の方へ頬紅を強くほかします。

— 離れた眼といふものは、見る人に軟い感じを與へるものですが、さうも聰明な眼の感じはしませんから、やはり少し手加減をした方がよろし

うございます。それには、萬遍なく化粧をしまして、頬紅を鼻一筋を残すくらゐに、鼻へよせてつけますと、たいへん眼が接近して見えます。

— 眼の廻りの黒いお方、これは中年のお方、ことに、ヒステリー性のお方に多いのですが、また遺傳による場合もあります。かういふお方は、マッサージによる外はありませんが、それとて絶対に治すことは困難であります。白粉をつけるならば、ごく薄つけておいた方がよろしうございます。

## 眉の美しさを

眉は、なかなか大切なものでして、眉の形で、眼の形まで左右することがございます。

眉も時代によりまして、だんだん變化してまゐりますもので、昔は花の顔容、月の眉と云ひまして、新月のやうな眉が愛でられたものですが、當今では、眉が眼に近く一線をなしてゐるを現代人の眉として喜ばれてゐるやうでございます。

眉は、眼と違つて、さうにでも作ることが出来ないので、なか／＼便利ですが、それだけに、その作り方によつては、その人の品性まで偲ばれるものですから、心して作らなければなりません。

いつたいに、太い眉は、薄くても濃くてもほやけるものですから、上下から剃り集めて、はつきりさせる方が、よろしうございます。

眉を、はつきりさせますと、顔の道具も、はつきりしますから、顔全體が明るくなります。眉と眉の間がくつついて長いお方は、眉と眉の間を剃り

開いて、鮮明にした方がよろしうございます。

色の白い人は、眉が濃くないものですが、さういふお方は、はかへつてあまり濃くつけてはいけません。

なほ、眉の中へ、特別に白粉をつけて、それを喜ぶお方がありますが、あれはなんの根據もない感心しない一時の流行でしかありません。それよりも、周囲の白粉を、自然にほかしこむやうにした方が、よろしうございます。

つける眉墨は、コロップを焼いた粉やチヨークなさがよろしうございます。しかし、チヨークは、直接つけますと、光つて見苦しいものですからいつたん、紙にひいて細い筆で自然の眉の形をこわさないやうに、つけるのがよろしうございます。

そして、眉墨を、年が年中つけつばなしでは、毛根を壓へつけて、眉毛の發達を妨げますから、つけないでよい時、例へば夜、お寢みになる時なきは、綺麗にお落しになつた方が、よろしうございます。

### 美しい鼻

鼻は、自分といふものを代表する鏡……と云はれております。じつさい鼻の形のよいのは、誰が見ても感じのよいものでございます。

さて、これから、お化粧によつて、自分の鼻を美しくいたしてみることにしませう。

#### 高すぎる鼻

それは何となく冷たい感じのするものです。かうした鼻は、なだらかな

平面的なお化粧をして、鼻の存在を目立たないものにするのであります。

つまり、鼻筋を白くしないで、ごこも同じやうな白さにして、そして頬紅を鼻に近よらせないで、耳の方にほかしてゆきます。

また、眉が濃いと、なほ強く見えますから、なるべく薄く柔かくする工夫をすることでありませう。俗に二段鼻といふユダン型の鼻も、同じ化粧法で調和されます。

#### 低い鼻

鼻筋を白く通して、強く白粉をつけます。しかし鼻だけを強くすると、かへつて目立ちますから。顎まで強くして行つて、頬へ白粉をほかします。そして、顔に山つくるやうにするのです。また、眉を濃くして、鼻の中心點を眉にもつけてゆきます。頬紅は、鼻の際へつけて、鼻梁のところで見

の際から、ゑぐるやうに横にほかします。つまり、白い一線が、鼻の際にかすかに残るやうにするのです。

鼻筋の短い人

鼻が短くて、ちよつきりと切り離れたといふやうな感じのお方がありますが、これは鼻の下が、割に長いので、さう見えるのであります。やはり鼻を目立たせないことゝ、鼻下を短く見せることが何よりで、まづ鼻筋を通して鼻の下の白粉を薄めます。

また、色彩の濃厚なお化粧を避けて、頬紅は鼻の近くへさゝす、頬から外の方へほかします。

小さい鼻

これは、低い鼻と同じやうに、鼻ばかりに氣を取られないで、周囲によ

低い鼻は、鼻筋を通して眉を濃くいたします……。



尖った鼻は、鼻づらを白くし、下までそれを延ばします……。



小さい鼻は、鼻筋と小鼻を白くして、鼻脇の線をぼんやりさせます……。



つて目立たせないやうにいたします。

鼻全体を、やゝ濃くして、ことに小鼻までそれをもつてゆき、鼻と頬との境になる線は目立たせないやうに、ほんやりさせてしまひます。頬紅は遠くの方へほかい、眉は相當に濃くして、鼻の注意を眉にもつてゆきます。

### 尖った鼻

尖った鼻は、何となく奇立たしい感じがするものでありまして、たいてい真中が高く、鼻尖が出張つてゐるものです。これは平面的なお化粧をするに限ります。

そして、特に鼻面の白粉を濃くして、下から見上げたときに、柔かい感じのするやうに、そして鼻から流れた線を、すつと下まで濃くのばします。頬紅は鼻を遠ざけて耳の方にほかい、口紅も淡めにさします。

### だんご鼻

鼻の頭が丸くて、小鼻の大きいのがそれでありまして。まづ、鼻筋を通したお化粧をして、小鼻を薄くし、鼻先の面積を少く見せます。頬紅は鼻に近よせてさし、口紅をやゝ濃くし、鼻の縦の筋を目立たせません。

### 上向きの鼻

何となくしまりのない、落ちつきのない感じのするものです。真中を白くすると、鼻の孔が非常に目立ちますから、やゝ平面的なお化粧をして、かすかに鼻筋だけを通すやうにいたします。

### 赤鼻の手入れ

赤鼻は、いろいろの原因によつて、さうなるのでありますが、胃腸障害、婦人病、月經不順、妊娠、便秘なき、自分に原因してゐるそれを取り除け

ることが、なにより根本的方法でございます。ふだんの手當としましては、便通をよく整へて、局部にクリームをつけて、手まめにマッサージをして、血液の循環をよくするとであります。お化粧としましては、下地に青味の白粉をつけて、更にその上に白いのをつけることにしたら、よろしうございます。

### 顔さまざまの化粧

#### 色黒の顔

同じ色黒と云ひましても、赤黒い顔と蒼黒い顔とがあつて、一樣に、この化粧法を用ひて……とは申されません。

色の黒いお方が、お化粧によつて白く見せようとするのは、そこに無理のあるのを知ります。ですから、黒い顔は黒い顔なりに、少しでもお化粧の美を持つて來まして、その顔の特長を出す方が、上手なやり方に思はれます。

ですから、白くするといふお化粧よりは、むしろ、皮膚に光澤を出すために、肌色白粉を少し濃い目につけ、その上に頬紅を手際よく刷いて、なるべく健康さうに見せるやうにし、白粉も白色のや青色のを、絶対に用ひないやうにすることでございます。

#### 赤ら顔

たゞ一と口に、赤ら顔……と云ひましても、ニキビとか吹出物のために赤いのと、はちきれさうな健康美のために赤いのと、二種あるやうに見受けれます。

そして、かうした顔のお方は、冬になりますと、顔が紫色になつたり、白粉をつける、さす黒い色になつたりするものであります。

さちらにしましても、赤ら顔のお方は、氣永にマッサージをして血液の循環を促し、また、便通をよくして、顔をほてらせないやうに注意なさらねばなりません。

化粧水や化粧下には、脂肪の少ないものを用ひまして、白粉はなるべく濃くつけて、頬紅は用ひないやうにいたします。

### 頸筋の黒い

頸筋の美しさを溢へるといふことは、美容の何より働きかけるところでございます。じつさい、頸筋の黒いのは、お顔の黒いのより見苦しいものであります。

頸筋のむだ毛は、一切生やしておかないやうに、つねに氣をつけて剃り落し、白粉はあまり濃くなく、なるべくなら肌色のものを用ひて、目立たないやうに落ちついたお化粧をすることあります。

### 脂肪の多い顔

いくら念入りにお化粧しましても、この脂の多い顔は、すぐともう崩れ易いものですし、それに脂肪のために、ぎらくして見苦しいものであります。何より、しじゅう、脂肪をこるやうに心掛けねばなりません。

脂肪が出るくせに、なぜか顔が荒れてお困りになるお方をよく見受けま

す。  
さういふお方は、脂肪を平均させるために、マッサージをしたり、脂肪取紙洗粉または脂肪取りクリームで洗顔するようにし、化粧下には、リス

リン系とか脂肪の含んだものを避けて、化粧水を用ひます

お化粧は、うつすり、そして念入りにいたします。まづ、水白粉をつける前に、化粧水をつけ。水白粉を二度か三度に塗り、上に粉白粉をはたいておきますと、あまり脂肪が浮き出ないのでございます。

### 荒性の顔

病的のお方はとにかくとしまして、普通の荒性のお方でしたら、お寝みになる前に、コールドクリームをつけてマッサージをしたり、素顔を風にあてないやうにしますと、荒れは治るものであります。

化粧水は、アルコール性かまたは水クリームなごを、お用ひになるがよろしうございます。

## 洋髪の結び方の美容秘訣終



昭和三年七月十五日印刷  
昭和三年七月二十日發行

不許  
複製

洋髮の結び方と美容の秘訣  
定價金壹圓五拾錢也

著者 東京洋髮研究會  
發行人 田代三郎  
印刷人 小林定一  
印刷所 隣報社  
東京板橋町下板橋八七八番地  
東京板橋町三四四七番地  
東京板橋町三四四七番地

發行所 東京板橋町下板橋  
八百七十八番地  
東京洋髮研究會出版部  
振替東京七六九二七番

終

